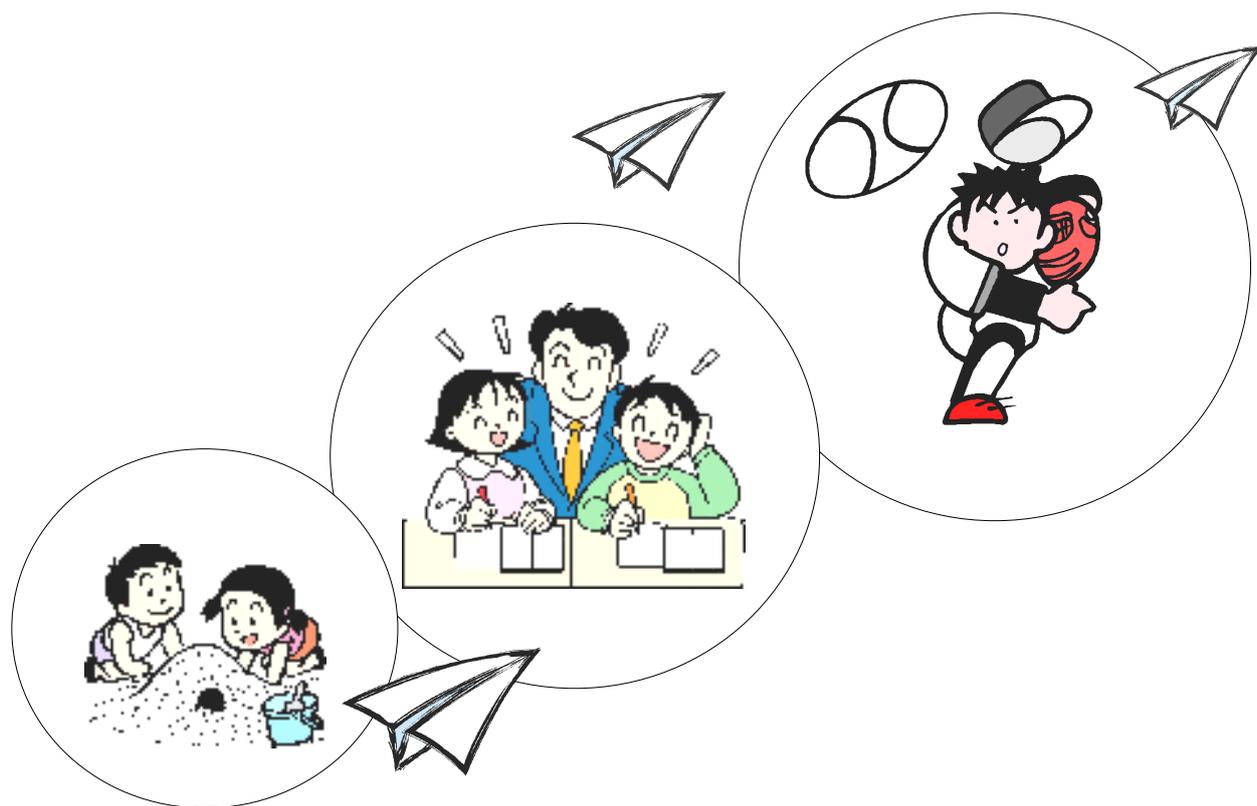


# 栗原市立学校再編計画

～ 子どもたちのために

よりよい教育環境を目指して～

## 実施計画＜後期計画＞



平成25年 5月

栗原市教育委員会

## 目 次

はじめに	1
------	---

### I 栗原市立学校再編構想

1 将来を展望した栗原市立学校が目指す学校教育の理念	2
2 「栗原市立学校再編計画」の基本的な考え方	3
3 栗原市立学校の適正規模の基準	6
4 適正配置	7
5 適正化を実現する方法	8
6 特色ある学校づくり	8

### II 栗原市立学校再編計画 実施計画

1 「前期計画」の実績	10
-------------	----

### 栗原市立学校再編計画 実施計画<後期計画>

1 検討の手順	14
2 具体的な計画 <見直し後の後期計画>	
(1) 小学校	16
(2) 中学校	26
(3) 幼稚園	36
3 推進スケジュール	38

### <参 考 資 料>

■栗原市立幼稚園のこれまでの園児数の推移と将来推計	… 40
■再編小学校を除く小学校の児童数と学級数のこれまでの推移と将来推計	… 42
■再編中学校を除く中学校の生徒数と学級数のこれまでの推移と将来推計	… 45
■栗原市立幼稚園施設の状況	… 48
■栗原市立小・中学校施設の状況	… 49

## はじめに

栗原市教育委員会（以下「教育委員会」）は、平成18年3月に栗原市学校教育環境検討委員会（以下「検討委員会」）に次の2項目を諮問しました。

- 1 栗原市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本的な考え方及び適正化に向けた具体的方策について
- 2 幼稚園の保育年数及び適正規模及び適正配置について

これを受け検討委員会で、18回にわたる審議が行われ、平成19年9月6日「最終報告」として、答申を受けました。

教育委員会は、検討委員会がまとめた最終報告を最大限に尊重し「栗原市立学校再編計画」を策定し、平成19年度から、複式学級の編制が想定される小学校及び単学年で20人未満となる小学校と、単学年で1学級編制となる中学校を対象に、平成25年度までの実現を目指して「前期計画」を推進してきました。

その結果、幼稚園10園・小学校21校・中学校4校で再編を進めることになり、再編後の市内全体で、平成26年4月までに、幼稚園15園・小学校14校1分校・中学校8校1分校となり、一定規模の確保ができたところでございます。

「後期計画」では、平成19年度以降に出生する将来の児童生徒数の動向を見極め、また前期計画の進捗状況を考慮したうえで、栗原市立学校再編構想が示す、望ましい教育環境を実現していくことで当初計画を見直し、平成31年度までの実現を目指して再編を推進していきます。

なお、幼稚園については、新たに3年保育に取り組むために、確実に施設整備が必要になってくることから計画的な施設整備を行い、できるだけ早い時期に実施していくこととします。

「実施計画」は、教育委員会が市民の皆様に提案をする計画となります。そのため、計画を示し、対象となる学校区ごとに地域の皆様と話し合いを重ね合意形成を図りながら進めていきます。

なお、栗原市立学校再編計画のうち、教育委員会としての基本的な考え方をまとめた、「I 栗原市立学校再編構想」について、平成19年度以降の制度改正などの要素により、現状等との整合性を図るため一部加筆・修正しています。

栗原市教育委員会

# I 栗原市立学校再編構想

## 1 将来を展望した栗原市立学校が目指す学校教育の理念

### 『知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成』

栗原市の将来を担う子どもたちが活躍するこれからの社会は、これまで以上に情報化、国際化、価値観の多様化、そして高齢化が進むといわれており、生活文化が「物の豊かさから心の豊かさへ」「均質性から多様化へ」とますます変化していくことが予想されます。

このような社会の変化に主体的に対応できる、心豊かでたくましい人間の育成を目指し、教育委員会は、「学校教育の基本目標」を次のとおり掲げています。

#### 学校教育の基本目標

<確かな学力を育成する>

<豊かな心をはぐくむ>

<心身の健康と体力の向上を図る>

#### めざす『栗原っ子』像

<好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども>

<感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども>

<心身ともに健康で たくましく活動する子ども>

この理念のもと、確かな思考力や判断力、表現力や情報活用能力等を身につけていくことなど、子ども一人ひとりに、自ら行動する力、自ら未来を切り開きたくましく生きる力を身につける教育を進めてまいります。

学校教育においては、児童生徒一人ひとりが主体的な学習活動を通して、確かな学力を身につけるとともに、集団による教育的機能を発揮しながら、互いに学び合い、尊重し合い、幅広い資質を培うことを目指してまいります。

## 2 「栗原市立学校再編計画」の基本的な考え方

栗原市総合計画（平成19年3月決定）では、栗原市の将来像の一つに「豊かな感性と生きる力を育むまち」を挙げ、基本方針の第一に「次代を担うたくましい子どもの育成」を掲げています。この方針に基づき「学校教育施設等の適正規模、適正配置を図りながら、安心して学習に取り組める環境整備の推進」と施策に掲げています。

教育委員会は、学校教育の理念のもと、基本目標を達成するため、望ましい集団、学校組織を構築し、地域と連携して学校教育環境を整えていきます。

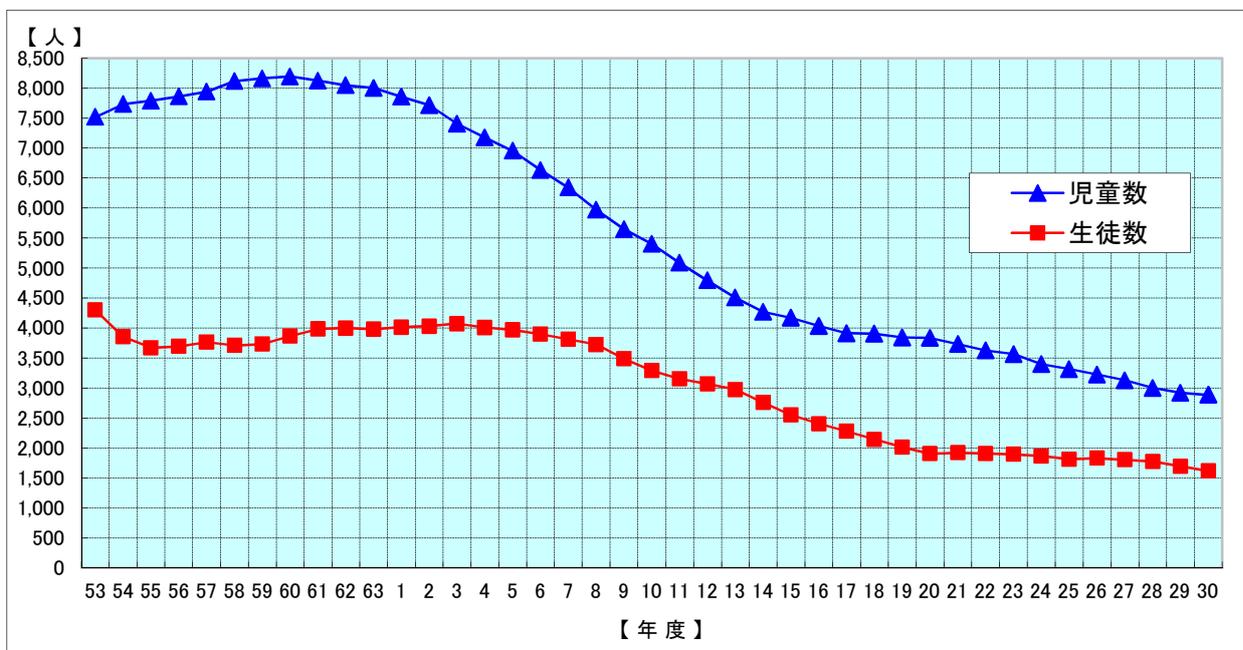
### （1）学校の小規模化、学級の少人数化の傾向

少子化は、全国的な傾向であり、栗原市においても同じように少子化が進行している状況で、学校の小規模校化など子供たちが学ぶ学校教育環境にも影響してきています。

栗原市における児童生徒の在籍数は、約35年前の昭和53年から推移を見た場合、小学校児童数は昭和60年の8,195人をピークに、中学校生徒数は昭和53年の4,299人をピークに減少傾向が続いています。

平成24年5月1日現在では、小学校児童数が3,396人、中学校生徒数が1,865人で、ピーク時と比較すると児童数で41.4%、生徒数で43.4%まで減少しています。平成24年4月1日までに出生した未就学児で今後6年間で具体的に推計すると、平成30年度には、児童数で2,886人（ピーク時比較35.2%）、生徒数で1,618人（ピーク時比較37.6%）まで減少することが想定されます。

【市立小中学校の児童生徒数の推移】



このように市内で進行する少子化の影響を受け、教育委員会では、市内の学校においても、学校の小規模校化、学級の少人数化などの課題を背負うことになっていくと考えています。

## (2) 小規模校化に伴う教育環境等への影響

少人数の学級（20人未満）や全学年が1学級程度の小規模小学校では、児童一人ひとりに目が行き届き、例えば算数の九九や縦笛の練習など繰り返し練習する場合に入念に教えることができるといった、きめ細かな指導ができます。

また、それぞれの先生が自分の担任する学級以外の子どもにも目の届く機会も多く、先生と子どもたちが一体となり学校ぐるみで特色ある学習の場をつくりやすい条件が整っているといった良さがあります。

その一方で、友達の多様な考えにふれて学び合い、学習の成果を深化・発展させることが難しくなりがちです。さらに、グループ学習などの学びの形態に多様性が持てにくいという状況もあります。

例えば、教科において、体育では、バスケットボールやサッカーなどの集団で行うゲームの場合、少人数のためどうしてもミニゲーム形式をとることになり、正規のルールや試合方法を体得することが難しかったり、さらに、現在増加している10人未満の学級では、ミニゲームもできない状況です。音楽では、少人数合奏はできても、各学年の領域に合わせた大合奏は望めなくなります。

小規模小学校では、運動会や学芸会などの各種の行事等において選手や発表の主役になる機会に恵まれており、子どもたちの出場・出演の場が多くとれます。また、子どもたちのそれぞれが、何らかの役割を分担するため行事への一人ひとりの参加意識は高まります。

しかし、運動会では、組み体操やダンスなど集団演技ができにくく、団体種目を通して学ぶ協力の大切さや楽しさを経験することが難しかったり、学芸会の劇では、全員に役をふりあてても、まだ出演者が足りず、結局、脚本を大幅に修正して演じる方法をとらざるを得ない場合があります。また、子どもたち一人ひとりが何らかの役割を分担することで参加意識は高まりますが、準備・出場・後片付けと忙しすぎる状況で大きな負担になるといわれています。

また、小規模中学校では、生徒の希望する部活動が成立しにくい状況があり、希望する活動を選択できないという課題もでてきます。

学校では、教科等の基礎・基本の定着を図り、一定の集団によって応用力を身につけることを目標としています。また、集団活動を通して児童生徒の社会性を涵養するという目標もあり、学校規模や学級集団が小さくなると、このような教育効果を得ることが難しくなります。

さらに、教員配置においては、小学校で通常の学級数が5学級以下になると学級担任が教務主任を兼ねなければならなくなります。中学校においては9学級以下になると教科ごとに専門の教員が配置されなくなる可能性が高くなります。

今後は、学級や学年の集団を基本とし、少人数指導（授業）やT T指導<sup>※1)</sup>を積極的に取り入れ基礎・基本の定着を図り、さまざまな人の考え方を取り入れ、自分の思いや考えを深め、思考力、応用力を高めていきます。また、各教科、道徳、特別活動等のさまざまな活動を通じて、個人を超えた集団としての機能を発揮させ、集団の一員として社会のルールを学び取りながら、さまざまな知識や技能を体得させていきます。一定の集団の中で、さまざまな体験活動を通して、心身ともに鍛え合いそれぞれが自ら成長できる力を高めていきます。このことの実現が求められると考えます。

※1) T T指導は、ティーム ティーチングの略称で、1つの学級で複数の教員が指導にあたる個に応じたきめ細かな指導法です。

### (3) 望ましい教育環境

市内では、小規模校の良さを活かしながら、できるだけ小規模校のマイナス面を補うような教育が行われています。しかし、現在でも複数の小学校で複式学級<sup>※2)</sup>の編制を余儀なくされている状況で、個々の小規模校における取り組みだけでは克服することが難しい、学校規模そのものに起因する課題が顕在化してきています。

「(2) 小規模校化に伴う教育環境等への影響」で記述したように、学校規模や集団が小さくなることによるさまざまな懸念が生じており、学校教育環境をいかに整えるかが栗原市の重要な教育行政課題となっています。

小規模校の課題など学校教育環境について、教育の機会均等の観点から、市内の小中学校、幼稚園を全市的な視野に立って、公平性を確保する努力をしていかなければならないと考えます。

小規模校の課題を解消し教育効果を高めていくには、次に挙げる学校規模を確保していくことが必要になります。

- ・児童生徒間、児童生徒と教師間において多様な人間関係をはぐくみ、互いに理解を深め、切磋琢磨し合いながら社会性を養っていく学校規模。
- ・グループ学習や部活動、学校行事など一定の規模の集団による教育活動が成立する学校規模。
- ・校内で、教職員の教科研究や指導の充実が日常的に可能となる適正な数の教師集団で構成される学校規模。

<sup>※2)</sup> 複式学級は、小学校の連続する2つの学年に在籍する児童数が16人以下の場合は、この2つの学年で1学級を編制することになります。これは、1人の学級担任が、2つの学年を1つの教室で指導することになります。また、第1学年と第2学年の場合は、児童数が8人以下になると複式学級となります。

ただし、その複式学級の児童数が13人以上いる場合は、県単独による教諭等の臨時的加配措置により、当該学校に1人の教員が配置されます。

また、中学校の連続する2つの学年に在籍する生徒数が8人以下の場合は、この2つの学年で1学級を編制することになります。

### 3 栗原市立学校の適正規模の基準

学校教育においては、集団からさまざまな刺激、葛藤などの影響を受けて、学力はもちろんのこと、人間性、社会性がはぐくまれていくものと考えられます。子どもたちの成長にとって好ましい学校教育環境を実現していくために、栗原市としての適正な基準が必要であると考えています。

現在の市内各学校の良さを活かしつつ、教育課程を適切に実施するための、学校として必要な一定の規模を「適正規模」ととらえ、基準を設定しています。

#### (1) 小学校

**ア、学年規模：**各学年でクラス替えによる交流を可能にするため、各学年2学級以上とし、全体で12学級以上の確保を目指します。

ただし、各学年3学級程度（全体で18学級程度）を上限の目安とします。

**イ、学級編制：**現在、国の基準及び国の財源をもとに小学校1～2年生で、35人を標準とする学級編制が行われています。なお、国においては、学級編制基準を低学年から順次35人を標準とすることが決定されていますが、国の財政状況により、その実施が先送りされている現状となっています。

栗原市においては、小学校の全ての学年において35人を標準とする学級編制に取り組みます。

#### (2) 中学校

**ア、学校規模：**小学校と同様に、各学年でクラス替えによる交流を可能にするため、各学年2学級以上とすることを基本とします。

さらに、専門の教科担任を確保し、授業時数の多い5教科（国語、社会、数学、理科、英語）で複数の教員、授業時数の少ない実技系教科（音楽、美術、保健体育、技術、家庭）でも専門の教員が配置され、充実した教科指導が可能になるように、全体で9学級以上（各学年3学級以上）の確保を目指します。

ただし、各学年5学級程度（全体で15学級程度）を上限の目安とします。

**イ、学級編制：**現在、宮城県独自の学級編制弾力化事業によって中学校1年生で、35人を標準とする学級編制が行われています。

なお、国においては、学級編制基準を小学校に続き、下学年から順次35人を標準とすることとされていますが、国の財政状況により、その実施が先送りされている現状となっています。

栗原市においては、中学校の全ての学年で35人を標準とする学級編制に取り組みます。

ただし、中学校2、3学年では、必要な教科における少人数による指導とグループ学習や学校行事など一定規模の集団による教育効果を高めることの両面から、学級編制を考慮していきます。

**(3) 幼稚園**

- ア、**保育年数**：市立幼稚園の保育年数を3年にします。
- イ、**学級規模**：標準とする学級の人数規模を3歳児20人程度、4・5歳児各30人程度を原則とします。
- ウ、**幼稚園規模**：幼児教育においては、「一定の集団を形成し群れて遊ぶ」という要素が大事になります。そのため、年齢児ごとに1学級、幼稚園全体で3学級80人程度、又はこれを超える規模を基本とします。

**4 適正配置**

小・中学校、幼稚園の適正配置については、児童生徒にとって自宅と学校の距離が可能な限り近いことが理想であると考えています。しかし、再編計画の基点となった課題は、児童生徒数の減少による学校の小規模化であったことから、まずは適正規模の確保を第一に考慮した計画としています。

**(1) 小学校**

- ア、**学校数**：前期計画の推進により、平成26年度には14校となりますが、栗原市総合計画で「各地区の生活基盤の向上を図り、相互につながるクラスター型<sup>※3)</sup>の生活拠点形成を目指す」ことにしていることから、「後期計画」において小中一貫校の創設を含めて、原則として旧町村ごとに1校程度とし、全体で11校の配置とします。なお、小学校の再編は、現在の中学校区の範囲を基本としますが、学校再編または学区再編によって旧町村境界を越えることもあります。
- イ、**通学支援**：学校再編・学区再編を行う際の通学距離は、原則として4キロメートル以内を基本としますが、再編の実施に伴いこれを超える通学距離になる場合は、必要な通学支援を行うことにします。ただし、小学校2年生以下（自転車通学の許可を受けるまでの3年生を含む）は、2キロメートル以上となる場合に通学支援を行うことにします。

**(2) 中学校**

- ア、**学校数**：前期計画の推進により、平成25年度には8校となりますが、「後期計画」において小中一貫教育校の創設を含めて7校程度の配置とします。
- イ、**通学支援**：学校再編・学区再編を行う際の通学距離は、6キロメートル以内を基本としますが、再編の実施に伴いこれを超える通学距離になる場合は、必要な通学支援を行うことにします。

**(3) 幼稚園**

- ア、**幼稚園数**：市内全体で10園程度とします。  
ただし、私立幼稚園と共存する立場で、再編後の公立幼稚園の運営を私立幼稚園が担っていくことなどを協議、研究しながら推進してきました。
- イ、**通園方法**：基本的には、通園バス等を利用することとして配置を考えます。ただし、自宅から幼稚園まで徒歩で通園可能な園児は除きます。
- ウ、**保育形態**：現在、栗原市では、3～5歳児を対象とする幼児教育・保育は、幼稚園、幼保一元化園、保育所の3形態となっていますが、3～5歳児の保護者により分かりやすい幼児教育と保育の環境を提供するために、3～5歳の希望するすべての幼児を幼稚園児とする栗原市独自の取り組みを検討してまいります。

※3) クラスター型とは、葡萄の房が一つの木に同じように実として生っているように、合併前の旧町村がそれぞれの個性を保ちながら市を構成している形態をいいます。

## 5 適正化を実現する方法

適正規模を確保するための具体的な方法は、学校再編、または通学区域を見直し学区の組換えによる再編が基本となります。具体的には、対象となる児童生徒数の推移や栗原市総合計画などを総合的に検討して計画していきます。

学校再編にあたっては、地域での話し合いを重ねて合意形成後、実施までに1年から2年までの準備期間を置き、どの校舎施設を利用する場合でも新たな学校を創設することと捉え、校名・校歌・校章・校旗・制服等について、再編対象学校区ごとに保護者及び地域の代表者等で構成する「地区学校再編準備委員会」を設置して改めて協議を行っていきます。また、児童生徒やPTA（父母教師会）、教職員の相互交流を行い、円滑な再編と再編後の混乱を最小限に抑えることに努めていきます。

## 6 特色ある学校づくり

栗原市立学校の再編を契機に「特色ある学校づくり」にも取り組んでいきます。

これは、将来を見据えた学校づくりのモデル校としての性格を持たせ、学校再編後の学校とともに市立学校全体の活性化の役割を果たしていくことを目的としています。

### ア、小中一貫教育校

平成20年4月から、「教育課程特例校」として文部科学大臣の指定を受けることにより、地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するため、当該学校又は当該地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施することが可能となりました。宮城県内では現在、登米市立豊里小・中学校と聖ウルスラ学院英知小・中学校の2校が指定を受けています。

小中一貫教育校は、小学校6年と中学校3年の9年間を一貫した弾力的な教育課程を編成して、児童生徒の発達に合わせた教育を行うことが可能になります。

具体的には、児童生徒の発達に合わせ、小中学校の9年間を緩やかな区切りとしての「4・3・2」制の導入、国語・算数・理科・社会の授業数増や小学校段階で英語科を導入することなどが可能となります。

また、カリキュラムも中学年部(小5～中1)から学力向上などを目指した教科担任制を取り入れることで、例えば理科の実験が増え、目で見て、耳で聞く体験型学習の機会が増えるなど子どもたちにとって楽しみながら学べる授業が展開できます。

そのほかに、いわゆる「中1ギャップ<sup>※4)</sup>」の解消も期待できます。

栗原市では、金成地区における小中一貫教育本来の趣旨に則った様々な取り組みの成果を検証しながら、中学校の教科担任を確保する観点で小中学校の各学年で2学級程度が一定期間確保できる場合や地域の実態を考慮して、特色ある学校づくりの一つとして小中一貫教育校の創設を検討していきます。

※4) 中1ギャップとは、小学生から中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじみにくくなることをいいます。

## イ、中高一貫教育校

中高一貫教育校は、中学校3年と高等学校3年の6年間を通じて、「計画的・継続的な教育」を行うことを目指しています。既に、平成10年に「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行されており、法的にも中高一貫教育校の創設は可能になっています。

中高一貫教育校には3つの形態があります。

一つは、「連携型中高一貫教育校」で、市町村立中学校と県立高等学校等が教育課程の編成や教員・生徒間の連携交流を進め、高等学校の入学選抜においても、連携型入試として一定の条件下で募集定員の約90パーセント以内に設定し、連携中学校からの入学について配慮しています。宮城県内では南三陸町立3中学校と県立志津川高等学校が取り組んでいます。

二つは、「併設型中高一貫教育校」で、同一の設置者（例えば、宮城県）が設置するもので、中学校や高等学校の教育課程において学習指導要領基準の弾力的運用等の特例が認められ、中学校から高等学校への入試は原則行いません。宮城県立では、古川黎明高等学校と古川黎明中学校が平成17年度から、仙台二華高等学校と仙台二華中学校が平成22年度からそれぞれスタートしています。

三つは、「中等教育学校」で、これは全く新しく創設する形態の学校です。中学校と高等学校を一体にした学校で、教育課程は中高6年間の一貫した編成が可能となり、例えば中学校段階から高等学校レベルの英語や数学の教育が可能になるなど、首都圏や関西の名門私立学校が先駆けて導入を開始した形態の学校です。宮城県内の公立においては、仙台市立仙台青陵中等教育学校が平成21年4月からスタートしています。

宮城県教育委員会は、「今後の中高一貫教育校の検討にあたっては、現設置校において中高一貫教育本来の趣旨に則った様々な取組を積極的に進めつつ、その成果を検証したうえで見極めていく」ことを基本姿勢としています。

また、宮城県教育委員会は、「これからの地域社会を支えていく意欲や創造性等に富んだ人づくりに向けて、これまでの各種教育改革の取組を土台として、平成23年度から平成32年度までの10年間の計画期間とした、今後の高校教育改革の方向性及び高校の再編整備の方針を示すもの」として平成20年3月に「新県立高校将来構想」を公表しています。第1次実施計画によると、「市内4高校の学級数が16学級となっていますが、平成32年の中学校卒業生の見通しに基づいた必要学級数を12学級」としています。既に、宮城県では、高等学校本校の再編基準を『2年間連続して、全学年の在籍生徒数が収容定員の3分の2未満であり、かつ160人に満たない場合』としており、現在栗原市にある4県立高等学校が、さらに再編される可能性が高くなっています。

こうした状況の中で、「地域の子どもは地域で育てたい」「特色ある学校を地元で創れないものか」と願うのは自然な心情であり、「特色ある学校づくり」の一つとして、「中高一貫教育校」の創設について検討する必要があると考えます。

栗原市としては、宮城県教育委員会の基本姿勢を踏まえ「併設型中高一貫校」または「連携型中高一貫教育校」の創設について、県立高等学校の設置者である宮城県と協議を進めていきます。

※ 各項目において、平成19年度以降の制度改正などの要素により、現状との整合性を図り一部加筆・修正しています。

## Ⅱ 栗原市立学校再編計画 実施計画

### 1 「前期計画」の実績

学校再編は、「教育の質の維持と向上」「子どもたちの成長にとって何が大切か」「安心して生み育てることのできる教育（保育）環境」の観点をもって検討し、「児童生徒の多様な人間関係の確保」「一定の集団による学校教育活動の成立」「適正な教職員数の配置」を実現できる学校規模の確保を目指して計画しております。

前期計画では、全市的な視野に立ち、適正規模の基準と適正配置の観点で、学校再編が必要と考えられる幼稚園、小学校、中学校のうち、複式学級の編制が想定される小学校及び単学年で20人未満となる小学校と、単学年で1学級編制となる中学校を対象に、学校再編または学区再編を緊急に取り組むべき「前期計画」として平成25年度までの実現をめざし推進してきました。

#### ◎ 前期計画の推進過程

	前 期 計 画					
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
①計画説明	→					
②意見交換	→					
③地域説明		→				
④意見交換		→				
⑤再編準備		→				
⑥再編校開校		→				

以上のとおり推進してきた結果、次表のとおり再編を進めることができました。

① 小学校

	平成19年度 計画策定	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	前期計画推進期間							
南部方面	築館小学校							
	玉沢小学校							
	宮野小学校							
	富野小学校							
	宮野小病院分校							
	高清水小学校							
	瀬峰小学校							
	志波姫小学校							
	若柳小学校							
	大目小学校							
有賀小学校								
大岡小学校								
畑岡小学校								
沢辺小学校								
金成小学校								
萩野小学校								
萩野第二小学校								
津久毛小学校								
東部方面								
北部方面	岩ヶ崎小学校							
	栗駒小耕英分校							
	栗駒小学校							
	鳥矢崎小学校							
	尾松小学校							
	宝来小学校							
	文字小学校							
	鶯沢小学校							
西部方面	一迫小学校							
	姫松小学校							
	金田小学校							
	長崎小学校							
	花山小学校							
	2 9 校 / 2 分 校				2 9 校 / 1 分 校	2 7 校 / 1 分 校	1 8 校 / 1 分 校	1 4 校 / 1 分 校

② 中学校

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	計画策定	前期計画推進期間						
南部方面	築館中学校	→						
	築館中病院分校	→						
	高清水中学校	→						
	瀬峰中学校	→						
	志波姫中学校	→						
東部方面	若柳中学校	→						
	金成中学校	→						
北部方面	栗駒中学校	→						「新」栗駒中学校
	鶯沢中学校	→						栗駒中校舎を 活用
西部方面	一迫中学校	→					栗原西中学校	→
	花山中学校	→					一迫中を大規模 改修して活用	
	10校/1分校	→					9校/1分校	8校/1分校

③ 幼稚園

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考
	計画策定	前期計画推進期間						
南部方面	築館幼稚園 ①							築館地区で1園に再編，施設整備し3年保育の実現
	玉沢幼稚園 ①							
	宮野幼稚園 ①							
	富野幼稚園 ①							
	[私立] 築館聖マリア幼稚園 ③							
	高清水幼稚園 ②			高清水幼稚園 ③				幼保一元化
	瀬峰幼稚園 ②							施設整備(幼保一体)予定
	ふたば幼稚園 ③							施設整備(幼保一体)予定
東部方面	若柳幼稚園 ①							[私立] 若柳よしの幼稚園 ③ 若柳幼稚園舎に増築整備して活用 再編後の幼稚園運営を学校法人吉野学園が担う
	有賀幼稚園 ①							
	大岡幼稚園 ①							
	畑岡幼稚園 ①							
	[私立] よしの幼稚園 ③							
	金成幼稚園 ③							幼保一元化
北部方面	岩ヶ崎幼稚園 ②							栗駒地区で1園に再編，施設整備(幼保一体)し3年保育の実現
	栗駒幼稚園 ②							
	鳥矢崎幼稚園 ②							
	尾松幼稚園 ②				尾松幼稚園 ②			
	宝来幼稚園 ②				尾松幼稚園舎を活用			
	鶯沢幼稚園 ②				鶯沢幼稚園 ③	「新」鶯沢幼稚園 ③		幼保一元化
	文字幼稚園 ②				幼保一元化施設整備	鶯沢幼稚園舎を活用		
	一迫幼稚園 ②						「新」一迫幼稚園 ②	施設整備(幼保一体)予定
金田幼稚園 ②						一迫幼稚園舎を活用		
西部方面	花山幼稚園 ③							
	市立22園/私立2園					市立20園/私立2園	市立15園/私立2園	

※ 幼稚園名の次に表示する○数字は，保育年数を表しています。

## 栗原市立学校再編計画 実施計画<後期計画>

教育委員会は、望ましい教育環境を、教育基本法（平成18年法律第120号）第5条第2項において「義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。」と規定されており、これを念頭においています。

学校は、義務教育終了段階までに、この目的を達成して子どもたちを社会に送り出していく必要があると考えました。そのためにも、「児童生徒の多様な人間関係の確保」「学校教育活動」「教職員の配置」の観点からも一定の集団を形成し、学校教育活動を展開していくことが必要であると考えています。

平成20年3月に策定・公表した「栗原市立学校再編計画」で、教育委員会の基本的な考え方を示した「I 栗原市立学校再編構想」の実現を目指して、「栗原市立学校再編計画 実施計画<後期計画>」では、平成19年度以降の児童生徒数・学級数の推移と将来推計を分析検討し、また「前期計画」の進捗状況や国の制度改正の動向を考慮して、平成24年度において見直しを行った「後期計画」に基づき、平成31年度までの実現を目指します。

### 1 検討の手順

#### (1) 確認事項

「I 栗原市立学校再編構想」で示している「栗原市立学校の適正規模の基準」の実現に向けた「栗原市立学校再編計画 実施計画<後期計画>」を検討するにあたって、以下の項目で各校の現状などを確認しました。

- ① 現在の学校のままでの児童生徒数・学級数の将来推計  
(栗原市立学校再編構想で、示す「適正規模の基準」を確保できるか確認します。)
- ② 隣接校を含めた児童生徒数・学級数の将来推計  
(隣接する学校を再編対象校として、組み合わせた場合の将来推計を確認します。)
- ③ 隣接校を含めた地理的状況・通学上の課題・市総合計画等  
(隣接する学校区地域の状況と市総合計画などを確認します。)

## (2) 具体的な学校再編の検討

「(1) 確認事項」の3つの項目により各校の状況を確認した上で、それぞれの幼稚園、小学校、中学校について、適正規模を確保する方法としての学校再編もしくは学区再編を行うことについて検討しました。

### ア、 学校再編・学区再編の考え方

それぞれの幼稚園、小・中学校の児童生徒数・学級数の将来推計による規模及び地域形成の状況によって、再編が必要であると考えられる学校を対象として、学校再編もしくは学区再編の方法を選択しました。

なお、**学校再編**を行う場合は、「原則として対象校の通学区域を単位」とした組み合わせによる再編とし、**学区再編**を行う場合は、「原則として行政区を単位」とした再編とします。

### イ、 通学距離

学校再編・学区再編を行う際の通学距離の基準は適正配置で示したとおり、小学校でおおむね4キロメートル以内とし、中学校でおおむね6キロメートル以内とします。

この基準を超えるような場合であって、公共交通機関やスクールバスを利用することが必要と考えられる場合は、通学支援を行うことにします。

ただし、小学校2年生以下（自転車通学の許可を受けるまでの3年生を含む）は、2キロメートル以上となる場合に通学支援を行うことにします。なお、学校再編の実施により通学環境が大きく変わる場合（通学校が変わる場合）は、激変緩和策として当面、全学年を対象に2キロメートル以上となる児童の通学支援を行います。

また、児童・生徒の通学上の負担を考慮して、所要時間はいずれの場合であっても50分以内に設定していく必要があると考えています。

## 2 具体的な計画<見直し後の後期計画>

### (1) 小 学 校

#### 【 小学校再編の基本的考え方 】

基本的な考え方として、児童生徒の社会性を育てていくために、小学校、中学校ともにクラス替えによる児童生徒の交流を可能にするため各学年で複数学級以上となる学校規模、一定の規模の集団による教育活動が成立する学校規模及び適正な数の教師集団を構成できる学校規模の確立を目指してまいります。

そのため、栗原市立学校再編構想で示す、各学年で2学級以上を確保して行くことを目指して計画しています。

なお、学級の人数においても、学級内の学び合い、活力を持たせることなどの観点から、1学級あたり20人程度を確保できることも考慮していきます。

学級編制においては、現在、国の基準及び国の財源をもとに小学校1～2年生で、35人を標準とする学級編制<sup>※5)</sup>が行われています。なお、国においては、学級編制基準を低学年から順次35人を標準とすることが決定されていますが、国の財政状況により、その実施が先送りされている現状となっています。

栗原市においては、小学校3～6年生の学年を含め全ての学年において35人を標準とする学級編制に取り組みます。

また、栗原市立学校再編計画の「I 栗原市立学校再編構想」で示しているとおり、栗原市総合計画で「各地区の生活基盤の向上を図り、相互につながるクラスター型の生活拠点形成を目指す」ことにしていることから、小学校は、旧町村地区ごと1校以上を配置することを基本にします。

<sup>※5)</sup> 35人を標準とする学級編制では、学年の人数が35人までは1学級編制ですが、学年の人数が36人になると2学級編制になり、1つの学級の人数は18人になります。つまり、1つの学級が18人～35人の範囲で編制されます。

【 後期計画 総括表：小 学 校 】

方 部	計画策定時	前期計画での再編状況				後期計画		
	平成19年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成31年度まで	
南 部	築館小						築館小校舎	
	玉沢小							
	宮野小							
	富野小							
	中央病院分校							
	高清水小							
	瀬峰小							
	志波姫小							
	東 部	若柳小						[新]若柳小 若柳小校舎を 改修して活用
		大目小						
有賀小								
大岡小								
畑岡小								
沢辺小								
金成小							(仮)金成小 小中一貫校と して校舎建設	
萩野小								
萩野第二小								
津久毛小								
北 部	岩ヶ崎小		岩ヶ崎小				[新]栗駒小 岩ヶ崎小校舎 を活用，一部 増築	
	栗駒小耕英分校							
	栗駒小							
	鳥矢崎小							
	尾松小			栗駒南小 尾松小校舎を 改修して活用				
	宝来小							
	文字小							[新]鶯沢小 鶯沢小校舎を 活用
	鶯沢小							
西 部	一迫小						[新]一迫小 一迫小校舎を 内部改造して 活用	
	姫松小							
	金田小							
	長崎小							
	花山小							
29校/2分校		29校/1分校	27校/1分校	18校/1分校	14校/1分校		11校1分校	

※ 提案する再編の組み合わせを示しており，再編後の学校名は，改めて検討するので，使用する校舎名で表記しています。

築館小	(児童数 438人, 通常の学級数 14学級)
玉沢小	(児童数 76人, 通常の学級数 6学級)
宮野小	(児童数 136人, 通常の学級数 6学級)
富野小	(児童数 31人, 通常の学級数 4学級)

#### 【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・築館小学校の将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数（各学年で2学級以上）を維持できる見込みです。
- ・玉沢小学校の将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数の確保は難しい状況です。
- ・宮野小学校の将来推計からは、学級の児童数は一定人数の確保が見込めるものの、適正規模の基準を満たす学級数の確保は難しい状況です。また、平成25年度以降の推計では、児童数が若干の増加傾向を示していますが、これまでも宮野小学校の通学区域内から各世帯の諸事情で、就学指定校の変更<sup>※6)</sup>手続きにより宮野小学校以外の小学校に就学している状況があります。
- ・富野小学校では、平成14年から複式学級の編制を余儀なくされており、今後も複式学級の編制が続いていくことが見込まれます。また、平成24年度には在籍児童のいない学年も出現しています。なお、前期計画の推進段階で、平成24年8月6日付で、小学校PTAから「築館地区小学校再編に合意」した旨の報告がありました。併せて、「全児童を対象とした通学支援」と「再編の相手校については今後広く意見を求めながら、関係機関と協議して決めること」の要望が付帯されています。

#### 【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、築館地区内のそれぞれの小学校となり、築館小学校を除く3小学校において適正規模の基準（各学年で2学級以上）を満たす学級数の確保が難しい状況となっています。
- ・前期計画で提案していた、築館・玉沢小学校を1校とする再編の場合は、適正規模の基準を確保できる見込みですが、宮野・富野小学校を1校とする再編の場合では、適正規模の基準を満たす学級数の確保は難しい状況です。
- ・地区内小学校の複式学級の解消及び学級人数の一定規模を確保することを目指した学校再編を考える必要があります。
- ・また、栗原市立学校再編計画／I学校再編構想の適正配置において、「小学校は、旧町村地区ごと1校程度を配置する」こととしています。
- ・このようなことから、現在の築館小学校施設を活用して、地区内4校を1校とする学校再編が妥当であると考えられます。

#### 【隣接校を含めた地理的状況・通学上の課題・市総合計画等】

- ・築館地区は、栗原市の中心部に位置し、学区内を国道4号が南北に、国道398号が東西に走っています。また、市役所などの公共施設や文教施設等があり、市の中核的な役割を担っている地域となっています。
- ・児童の居住は、中心部の他、周辺部にも点在しており、通学距離や地形を考慮した通学支援が必要であると考えます。

※6) 就学指定校の変更は、市教育委員会が住所に基づき就学すべき学校を指定します。ただし、何らかの事情があり指定校を変更する場合は教育委員会に申し出して許可を受けて変更することができます。

<築館小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成24年度	69	76	76	77	81	56	435	3	438	2	3	2	2	3	2	14		2	16	
平成25年度	75	69	76	76	76	82	454	2	456	3	2	3	3	3	3	17		2	19	
平成26年度	103	75	68	75	75	77	473	2	475	3	3	2	3	3	3	17		2	19	
平成27年度	58	102	74	68	74	76	452	2	454	2	3	3	2	3	3	16		2	18	
平成28年度	73	58	101	74	67	75	448	1	449	3	2	3	3	2	3	16		1	17	
平成29年度	72	73	57	101	73	68	444	1	445	3	3	2	3	3	2	16		1	17	
平成30年度	67	72	72	57	100	74	442		442	2	3	3	2	3	3	16			16	
平成31年度	78	66	71	72	56	101	444		444	2	2	3	3	2	3	15			15	

※ 表中の「児童数、学級数」は、平成24年度は、5月1日現在の実数です。平成25～30年度は、平成24年4月1日までに生まれて市内に居住している乳幼児数を基礎に、就学指定校変更(平成19～24年度の平均)を考慮して推計しています。以降の各表においても同様です。

<玉沢小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成24年度	12	5	9	17	12	20	75	1	76	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成25年度	14	12	5	9	17	12	69	1	70	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成26年度	11	13	12	5	8	17	66	1	67	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成27年度	12	11	13	11	5	9	61	1	62	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成28年度	7	12	11	13	11	5	59	1	60	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成29年度	11	6	12	11	13	11	64		64	1	1	1	1	1	1	6			6	
平成30年度	10	11	6	11	10	13	61		61	1	1	1	1	1	1	6			6	
平成31年度	10	9	11	6	11	11	58		58	1	1	1	1	1	1	6			6	

<宮野小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成24年度	26	23	19	19	23	24	134	2	136	1	1	1	1	1	1	6		2	8	
平成25年度	27	25	22	18	18	22	132	2	134	1	1	1	1	1	1	6		2	8	
平成26年度	20	26	23	21	17	17	124	1	125	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成27年度	26	19	24	22	20	16	127	1	128	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成28年度	20	25	18	23	21	19	126	1	127	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成29年度	28	19	24	17	22	20	130	1	131	1	1	1	1	1	1	6		1	7	
平成30年度	19	26	18	22	17	21	123		123	1	1	1	1	1	1	6			6	
平成31年度	21	18	25	17	22	16	119		119	1	1	1	1	1	1	6			6	

<富野小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成24年度	4		2	10	9	6	31		31	1		1	1	1	4	1		4		
平成25年度	4	4		2	11	9	30		30	1	1		1	1	4	1		4		
平成26年度	1	4	4		2	11	22		22	1	1			1	3	2		3		
平成27年度	6	1	4	4		2	17		17	1	1		1		3	2		3		
平成28年度	4	6	1	4	4		19		19	1	1		1		3	2		3		
平成29年度	4	4	6	1	4	4	23		23	1	1	1		1	4	2		4		
平成30年度	5	4	4	6	1	4	24		24	1	1	1	1	1	4	2		4		
平成31年度	3	5	4	4	6	1	23		23	1	1	1		1	4	2		4		

※ 表中の「複数学年で1学級」の表示は、複式学級編制を表しています。平成24年度は実際の編制、平成25年度からは、編制の想定です。

<築館地区4校を1校とする再編の場合の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成24年度	111	101	111	125	130	110	688	6	694	4	3	4	4	4	4	23		3	26	
平成25年度	120	110	103	105	122	125	685	5	690	4	4	3	3	4	4	22		3	25	
平成26年度	135	118	107	101	102	122	685	4	689	4	4	4	3	3	4	22		2	24	
平成27年度	102	133	115	105	99	103	657	4	661	4	4	4	4	3	3	22		2	24	
平成28年度	104	101	131	114	103	99	652	3	655	4	4	4	4	4	3	23		2	25	
平成29年度	115	102	99	130	112	103	661	2	663	4	3	3	4	4	4	22		1	23	
平成30年度	101	113	100	96	128	112	650		650	3	4	3	3	4	4	21			21	
平成31年度	112	98	111	99	95	129	644		644	4	3	4	3	3	4	21			21	

※ 表中の「学級数で斜体表示」となっているのは、35人を標準とする学級編成により少人数編成となることを表示しています。

若 柳 小 (平成 25 年 4 月 1 日開校)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、若柳小学校、大目小学校、有賀小学校、大岡小学校及び畑岡小学校の5校を1校に再編し、平成25年度から新生「若柳小学校」として開校しており、再編後の児童数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・再編当初は、栗原市独自の学級編制基準により、平成25年度で全体の通常学級が21学級となりますが、平成28年度からは18学級となり、再編後の学級数の上限の目安として設定した学級数程度となります。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・再編後の学校規模として一定規模を確保することが見込まれることから、再編後の学校を維持していくこととします。

<再編後の若柳小学校の児童数・学級数の将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成24年度	85	92	108	109	111	97	602	10	612	3	3	4	4	4	3	21		2	23	
平成25年度	75	85	92	108	109	111	580	9	589	3	3	3	4	4	4	21		2	23	
平成26年度	84	75	85	92	108	109	553	5	558	3	3	3	3	4	4	20		2	22	
平成27年度	83	84	75	85	92	108	527	2	529	3	3	3	3	3	4	19		1	20	
平成28年度	80	83	84	75	85	92	499	2	501	3	3	3	3	3	3	18		1	19	
平成29年度	81	80	83	84	75	85	488		488	3	3	3	3	3	3	18			18	
平成30年度	105	81	80	83	84	75	508		508	3	3	3	3	3	3	18			18	
平成31年度	89	105	81	80	83	84	522		522	3	3	3	3	3	3	18			18	

※ 表中の「学級数で斜体表示」となっているのは、35人を標準とする学級編制により少人数編制となることを表示しています。

栗 駒 小 (平成 25 年 4 月 1 日開校)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、岩ヶ崎小学校、栗駒小学校及び鳥矢崎小学校の3校を1校に再編し、平成25年度から新生「栗駒小学校」として開校しており、再編後の児童数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・平成25年度から平成30年度までは、学年によって1学級となる学年も出現しますが、概ね各学年2学級程度を維持することができる見込みとなっています。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・再編後の学校規模として一定規模を確保することが見込まれることから、再編後の学校を維持していくこととします。

<再編後の栗駒小学校の児童数・学級数の将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成24年度	33	49	39	38	52	40	251	9	260	1	2	2	2	2	2	11		4	15	
平成25年度	39	33	49	39	38	52	250	9	259	2	1	2	2	2	2	11		4	15	
平成26年度	55	39	33	49	39	38	253	8	261	2	2	1	2	2	2	11		4	15	
平成27年度	45	55	39	33	49	39	260	7	267	2	2	2	1	2	2	11		4	15	
平成28年度	44	45	55	39	33	49	265	4	269	2	2	2	2	1	2	11		2	13	
平成29年度	30	44	45	55	39	33	246	1	247	1	2	2	2	2	1	10		1	11	
平成30年度	34	30	44	45	55	39	247		247	1	1	2	2	2	2	10			10	
平成31年度	41	34	30	44	45	55	249		249	2	1	1	2	2	2	10			10	

※ 表中の「学級数で斜体表示」となっているのは、35人を標準とする学級編制により少人数編制となることを表示しています。

栗 駒 南 小 (児童数 182人, 通常の学級数 6学級)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、尾松小学校及び宝来小学校の2校を1校に再編し、平成24年度から栗駒南小学校として開校しており、再編後の児童数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数の確保は難しい状況です。
- ・しかし、全ての学級で20人以上の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいを確保するという観点では一定規模の学級人数を維持できる見込みです。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす再編後の栗駒小学校と、適正規模の基準を満たさない鶯沢小学校となります。
- ・栗駒南小学校は前期計画において、再編前の小学校における複式学級解消を目指した緊急的な取り組みとして再編が実現して、開校1年目となっています。なお、隣接する鶯沢小学校も同様の取り組みによる再編・開校となっています。また、栗駒小学校は、平成25年度に開校しています。
- ・前期計画で提案をしていたとおり再編を進めることができ、栗駒南小学校の開校までに至ったことから、新たな再編は慎重に判断していく必要があると考えます。
- ・こうしたことから、学級数において適正規模を確保するには至りませんが、1学級20人以上となり、一定の学級規模を維持できる見込みであることから、当面は現在の学校を維持しながら、在籍児童数の動向を見守っていくこととします。
- ・ただし、小規模校化が進行していく状況が続くような場合は、隣接校との新たな学校再編や通学区の組換えによる再々編も視野に入れながら継続的に検討することが必要と考えます。

<栗駒南小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支援学級	合計	単式学級						複式学級	特別支援学級	合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年				小計
平成24年度	32	22	32	30	28	32	176	6	182	1	1	1	1	1	1	6		5	11
平成25年度	31	32	22	32	30	28	175	6	181	1	1	1	1	1	1	6		5	11
平成26年度	30	31	32	22	32	30	177	4	181	1	1	1	1	1	1	6		4	10
平成27年度	22	30	31	32	22	32	169	3	172	1	1	1	1	1	1	6		3	9
平成28年度	25	22	30	31	32	22	162	1	163	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成29年度	22	25	22	30	31	32	162	1	163	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成30年度	23	22	25	22	30	31	153		153	1	1	1	1	1	1	6			6
平成31年度	27	23	22	25	22	30	149		149	1	1	1	1	1	1	6			6

鶯 沢 小 (児童数 142人, 通常の学級数 6学級)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、文字小学校及び鶯沢小学校の2校を1校に再編し、平成24年度から新生「鶯沢小学校」として開校しており、再編後の児童数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数の確保は難しい状況です。
- ・しかし、全体的に各学年で20人程度の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいを確保するという点では一定規模の学級人数を維持できる見込みです。
- ・将来推計の後年度には、20人未満の少人数学級が増加する見込みで、学級内での学びあいを確保するという点でも難しい状況です。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たさない栗駒南小学校となります。
- ・鶯沢小学校は前期計画において、再編前の小学校における複式学級解消を目指した緊急的な取り組みとして再編が実現して、開校1年目となっています。隣接する栗駒南小学校も同様の取り組みによる再編・開校となっています。
- ・前期計画で提案をしていたとおり再編を進めることができ、鶯沢小学校の開校までに至ったことから、新たな再編は慎重に判断していく必要があると考えます。
- ・また、栗原市立学校再編計画／I学校再編構想において、「小学校は、旧町村地区ごと1校程度を配置する」こととしています。
- ・こうしたことから、学級数において適正規模を確保するには至りませんが、当面は現在の学校を維持しながら、在籍児童数の動向を見守っていくこととします。
- ・ただし、小規模校化が進行していく状況が続くような場合は、隣接校との新たな学校再編や通学区の組換えによる再々編も視野に入れながら継続的に検討することが必要と考えます。

<鶯沢小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級						複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計			
平成24年度	16	27	16	27	25	30	141	1	142	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成25年度	20	16	27	16	27	25	131	1	132	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成26年度	16	20	16	27	16	27	122		122	1	1	1	1	1	1	6			6
平成27年度	21	16	20	16	27	16	116		116	1	1	1	1	1	1	6			6
平成28年度	17	21	16	20	16	27	117		117	1	1	1	1	1	1	6			6
平成29年度	14	17	21	16	20	16	104		104	1	1	1	1	1	1	6			6
平成30年度	19	14	17	21	16	20	107		107	1	1	1	1	1	1	6			6
平成31年度	19	19	14	17	21	16	106		106	1	1	1	1	1	1	6			6

高 清 水 小 (児童数 202人, 通常の学級数 6学級)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数(各学年で2学級以上)の確保は難しい状況です。
- ・しかし、一部の学年を除き学級で20人以上の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいを確保するという点では一定規模の学級人数を維持できる見込みです。

【隣接校を含めた児童生徒数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす築館小学校と適正規模の基準を満たさない瀬峰小学校となります。
- ・栗原市立学校再編計画／I学校再編構想において、「小学校は、旧町村地区ごと1校程度を配置する」こととしています。
- ・こうしたことから、学級数において適正規模を確保するには至りませんが、当面は現在の学校を維持しながら、在籍児童数の動向を見守っていくこととします。
- ・ただし、小規模校化が進行していく状況が続くような場合は、隣接校との学校再編や通学区域の組換えによる再編を視野に入れながら継続的に検討することが必要と考えます。

<高清水小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支 援学級	合計	単式学級						複式 学級	特別支 援学級	合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年				小計
平成24年度	33	27	36	28	38	31	193	9	202	1	1	1	1	1	1	6		3	9
平成25年度	35	33	27	36	28	38	197	3	200	1	1	1	2	1	2	8		2	10
平成26年度	30	35	33	27	36	28	189	3	192	1	1	1	1	2	1	7		2	9
平成27年度	32	30	35	33	27	36	193	1	194	1	1	1	1	1	2	7		1	8
平成28年度	17	32	30	35	33	27	174		174	1	1	1	1	1	1	6			6
平成29年度	26	17	32	30	35	33	173		173	1	1	1	1	1	1	6			6
平成30年度	20	26	17	32	30	35	160		160	1	1	1	1	1	1	6			6
平成31年度	29	20	26	17	32	30	154		154	1	1	1	1	1	1	6			6

瀬 峰 小 (児童数 269人, 通常の学級数 11学級)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数(各学年で2学級以上)の確保は難しい状況です。
- ・しかし、全体的に各学年で20人以上の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいを確保するという点では一定規模の学級人数を維持できる見込みです。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たさない玉沢小学校と高清水小学校となります。
- ・栗原市立学校再編計画／I学校再編構想において、「小学校は、旧町村地区ごと1校程度を配置する」こととしています。
- ・こうしたことから、学級数において適正規模を確保するには至りませんが、各学年とも一定の学級規模を確保できる見込みであることから、当面は現在の学校を維持しながら、在籍児童数の動向を見守っていくこととします。
- ・ただし、小規模校化が進行していく状況が続くような場合は、隣接校との学校再編や通学区域の組換えによる再編を視野に入れながら継続的に検討することが必要と考えます。

<瀬峰小学校の児童数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支 援学級	合計	単式学級						複式 学級	特別支 援学級	合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年				小計
平成24年度	24	49	47	45	51	48	264	5	269	1	2	2	2	2	2	11		2	13
平成25年度	43	24	49	47	45	51	259	3	262	2	1	2	2	2	2	11		2	13
平成26年度	33	43	24	49	47	45	241	3	244	1	2	1	2	2	2	10		2	12
平成27年度	27	33	43	24	49	47	223	1	224	1	1	2	1	2	2	9		1	10
平成28年度	21	27	33	43	24	49	197		197	1	1	1	2	1	2	8			8
平成29年度	25	21	27	33	43	24	173		173	1	1	1	1	2	1	7			7
平成30年度	25	25	21	27	33	43	174		174	1	1	1	1	1	2	7			7
平成31年度	34	25	25	21	27	33	165		165	1	1	1	1	1	1	6			6

一 迫 小 (平成 25 年 4 月 1 日開校)

【現在の学校のままの児童数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、一迫小学校、姫松小学校、金田小学校及び長崎小学校の4校を1校に再編し、平成25年度から新生「一迫小学校」として開校しており、再編後の児童数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・将来推計では、学年によって1学級となる学年も出現しますが、概ね各学年2学級を維持することができる見込みとなっています。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・再編後の学校規模として、概ね一定規模を確保することが見込まれることから、再編後の学校を維持していくこととします。

<再編後の一迫小学校の児童数・学級数の将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数										学級数										
	通常の学級									特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年			3年	4年	5年	6年	小計					
平成24年度	58	54	51	57	56	72	348	11	359	2	2	2	2	2	3	13		2	15		
平成25年度	54	58	54	51	57	56	330	8	338	2	2	2	2	2	2	12		2	14		
平成26年度	40	54	58	54	51	57	314	4	318	2	2	2	2	2	2	12		2	14		
平成27年度	41	40	54	58	54	51	298	4	302	2	2	2	2	2	2	12		2	14		
平成28年度	37	41	40	54	58	54	284	2	286	2	2	2	2	2	2	12		1	13		
平成29年度	30	37	41	40	54	58	260		260	1	2	2	2	2	2	11			11		
平成30年度	40	30	37	41	40	54	242		242	2	1	2	2	2	2	11			11		
平成31年度	47	40	30	37	41	40	235		235	2	2	1	2	2	2	11			11		

※ 表中の「学級数で斜体表示」となっているのは、35人を標準とする学級編制により少人数編制となることを表示しています。

(仮称) 金 成 小 (平成 26 年 4 月 1 日開校)

【現在の学校のままの児童数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、沢辺小学校、金成小学校、萩野小学校、萩野第二小学校及び津久毛小学校の5校を1校に再編し、金成中学校と併せて小中一貫教育校として平成26年度から開校することで準備を進めており、再編後の児童数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・将来推計では、適正規模の基準を満たす学級数(各学年2学級)を維持することができる見込みとなっています。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・再編後の学校規模として一定規模を確保することが見込まれることから、再編後の学校を維持していくこととします。

<再編後の(仮称)金成小学校の児童数・学級数の将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数										学級数										
	通常の学級									特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年			3年	4年	5年	6年	小計					
平成24年度	49	48	56	55	52	59	319	5	324	2	2	2	2	2	2	12		3	15		
平成25年度	40	49	48	56	55	52	300	5	305	2	2	2	2	2	2	12		3	15		
平成26年度	46	40	49	48	56	55	294	3	297	2	2	2	2	2	2	12		2	14		
平成27年度	39	46	40	49	48	56	278	3	281	2	2	2	2	2	2	12		2	14		
平成28年度	43	39	46	40	49	48	265	2	267	2	2	2	2	2	2	12		1	13		
平成29年度	47	43	39	46	40	49	264	1	265	2	2	2	2	2	2	12		1	13		
平成30年度	40	47	43	39	46	40	255		255	2	2	2	2	2	2	12			12		
平成31年度	46	40	47	43	39	46	261		261	2	2	2	2	2	2	12			12		

※ 表中の「学級数で斜体表示」となっているのは、35人を標準とする学級編制により少人数編制となることを表示しています。

志 波 姫 小 (児童数 349人, 通常の学級数 12学級)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数(各学年で2学級以上)を維持することができると見込みとなっています。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす築館小学校と若柳小学校となります。
- ・学校規模として一定規模を確保することが見込まれることから、現在の学校のまま維持していくこととします。

<志波姫小学校の児童数・学級数の将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級								特別支 援学級	合計	単式学級						複式 学級	特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計			
平成24年度	49	54	57	61	64	62	347	2	349	2	2	2	2	2	2	12		1	13
平成25年度	41	49	54	57	61	64	326	3	329	2	2	2	2	2	2	12		2	14
平成26年度	52	41	49	54	57	61	314	3	317	2	2	2	2	2	2	12		2	14
平成27年度	59	52	41	49	54	57	312	1	313	2	2	2	2	2	2	12		1	13
平成28年度	42	59	52	41	49	54	297		297	2	2	2	2	2	2	12			12
平成29年度	56	42	59	52	41	49	299		299	2	2	2	2	2	2	12			12
平成30年度	43	56	42	59	52	41	293		293	2	2	2	2	2	2	12			12
平成31年度	52	43	56	42	59	52	304		304	2	2	2	2	2	2	12			12

花 山 小 (児童数 30人, 通常の学級数 3学級)

【現在の学校のままでの児童数・学級数の将来推計】

- ・将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数(各学年で2学級以上)の確保は難しい状況です。
- ・平成21年から複式学級の編制を余儀なくされており、今後も複式学級の編制が続いていくものと見込まれます。また、平成29年度には在籍児童が1人となる学年も出現することが見込まれます。

【隣接校を含めた児童数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす再編後の一迫小学校と、適正規模の基準を満たさない再編後の鶯沢小学校となります。
- ・栗原市立学校再編計画/I学校再編構想において、「小学校は、旧町村地区ごと1校以上を配置すること」としています。
- ・こうしたことから、前期計画で位置付けた、通学区域の特認校制度<sup>※7)</sup>の本格運用に取り組み、当面は現在の学校を維持しながら、在籍児童数の動向を見守っていくこととします。
- ・ただし、小規模校化がさらに進行していく状況が続くような場合は、隣接校との学校再編や通学区域の組換えによる再編を視野に入れながら継続的に検討することが必要と考えます。

<花山小学校の児童数・学級数の将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級								特別支 援学級	合計	単式学級						複式 学級	特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計			
平成24年度	5	3	3	8	3	7	29	1	30	1		1		1		3	3	1	4
平成25年度	6	5	3	3	8	3	28		28	1	1		1		1	4	2		4
平成26年度	7	6	5	3	3	8	32		32	1	1	1		1		4	2		4
平成27年度	11	7	6	5	3	3	35		35	1	1	1	1		1	5	1		5
平成28年度	6	11	7	6	5	3	38		38	1	1	1	1	1		5	1		5
平成29年度	3	6	11	7	6	5	38		38	1		1	1	1		4	2		4
平成30年度	10	3	6	11	7	6	43		43	1	1		1	1		4	2		4
平成31年度	7	10	3	6	11	7	44		44	1	1	1		1	1	5	1		5

※ 平成25年度以降の児童数は、通学区域の特例による増を若干見込んでいる。また、学級数で、複数学年で「1」の表示は、複式学級編制を表しており、平成24年度は実際の編制、平成25年度からは、編制の想定です。

※7) 通学区域の特認校制度は、従来の通学区域は残したままで、特定の学校において、通学区域に関係なく、市内外のどこからでも就学を認める制度です。

## (2) 中 学 校

### 【 中学校再編の基本的考え方 】

基本的な考え方として、児童・生徒の社会性を育てていくために、小学校・中学校ともにクラス替えによる児童・生徒の交流を可能にするため各学年で複数学級以上となる学校規模、一定の規模の集団による教育活動が成立する学校規模及び適正な数の教師集団を構成できる学校規模の確立を目指してまいります。

中学校では、教科担任制となることから教科ごとに専門の免許を持った教員が配置されることを考慮した、適正規模の基準として、栗原市立学校再編構想で示す、学校全体で9学級以上（各学年で3学級程度）を確保して行くことを目指して計画しています。

学級編制においては、現在、宮城県学級編制弾力化事業により中学校1年生で、中1ギャップの解消などを目的に35人を標準とする学級編制が行われています。なお、国においては、学級編制基準を下学年から順次35人を標準とすることが決定されていますが、国の財政状況により、その実施が先送りされている現状となっています。

栗原市においては、中学校2～3年生の学年を含め全ての学年において35人を標準とする学級編制に取り組みます。

ただし、教育基本法で規定する義務教育の目的を達成して子どもたちを社会に送り出していく必要があり、その最終段階となることから、中学校2、3学年では、グループ学習や学校行事など一定規模の集団による学校教育活動を通じて、主体性・協調性を確立し、責任感・連帯感の涵養などを通じて社会生活に関わっていく力を身に付けさせていかなければなりません。

一方、教科指導では、必要な教科における少人数による指導を採り入れながら学習内容を確実に身に付けることができよう to 充実を図っていくこととします。

このようなことから、必要な教科における少人数による指導を採り入れることとグループ学習や学校行事など一定規模の集団による教育効果を高めることの両面から、学級編制を考慮していきます。

【 後期計画 総括表：中学校 】

方 部	計画策定時	前期計画での再編状況			後期計画			備考
	平成19年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成31年度まで		
南 部	築館中							
	中央病院分校							
	高清水中						瀨峰中校舎	
	瀨峰中							
	志波姫中							生徒数の 推移により 再編検討
	若柳中							
東 部	金成中				小中一貫教育校			
	栗駒中							中高一貫教 育校の実現 可能性検討
北 部	鶯沢中							
	栗駒中							
西 部	一迫中							
	花山中							
	栗原西中							
	10校/1分校	9校/1分校	8校/1分校	8校/1分校		7校1分校		

築 館 中 (生徒数 335人, 通常の学級数 10学級)

【現在の学校のままの生徒数・学級数の将来推計】

- ・将来推計からは、適正規模の基準（全体で9学級以上）を満たす学級数を維持することができる見込みです。

【隣接校を含めた生徒数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たさない栗原西中学校と志波姫中学校となります。
- ・学校規模として一定規模を確保することが見込まれることから、現在の学校のまま維持していくこととします。

<築館中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	109	107	116	332	3	335	4	3	3	10	2	12
平成25年度	110	109	107	326	3	329	4	3	3	10	2	12
平成26年度	130	110	109	349	3	352	4	3	3	10	2	12
平成27年度	125	130	110	365	3	368	4	4	3	11	3	14
平成28年度	111	125	130	366	3	369	4	4	4	12	3	15
平成29年度	101	111	125	337	2	339	3	3	4	10	2	12
平成30年度	111	101	111	323	1	324	4	3	3	10	1	11
平成31年度	127	111	101	339		339	4	3	3	10		10

※ 表中の「生徒数,学級数」は、平成24年度は、毎年5月1日現在の実数です。平成25～30年度は、通学区域内の小学校の在籍児童数及び平成24年4月1日までに生まれて市内に居住している乳幼児数から推計しています。以降の各表においても同様です。

若 柳 中 (生徒数 345人, 通常の学級数 10学級)

【現在の学校のままの生徒数・学級数の将来推計】

- ・将来推計からは、全体的に適正規模の基準を満たす学級数(全体で9学級以上)を確保できる見込みですが、将来推計の後年度には適正規模の基準を下回ることが想定されます。
- ・しかし、全ての学年で学級30人以上の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいの確保、及びグループ学習や学校行事など一定規模の集団による教育活動を成立させるという観点では、一定規模の学級を維持できる見込みです。

【隣接校を含めた生徒数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、再編後の金成地区小中一貫教育校(金成中学校)と適正規模の基準を満たさない志波姫中学校となります。
- ・学校規模として一定規模を確保することが見込まれることから、現在の学校のまま維持していくこととします。

<若柳中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	108	111	118	337	8	345	4	3	3	10	2	12
平成25年度	97	108	111	316	5	321	3	3	3	9	2	11
平成26年度	111	97	108	316	6	322	4	3	3	10	1	11
平成27年度	109	111	97	317	8	325	4	3	3	10	2	12
平成28年度	108	109	111	328	7	335	4	3	3	10	2	12
平成29年度	92	108	109	309	5	314	3	3	3	9	1	10
平成30年度	85	92	108	285	2	287	3	3	3	9	1	10
平成31年度	75	85	92	252	2	254	3	3	3	9	1	10

栗 駒 中 （平成 25 年 4 月 1 日開校）

【 現在の学校のままでの生徒数・学級数の将来推計 】

- ・前期計画において、栗駒中学校及び鶯沢中学校の2校を1校に再編し、平成25年度から新生「栗駒中学校」として開校しており、再編後の生徒数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・将来推計からは、全体的に適正規模の基準を満たす学級数（全体で9学級以上）を確保できる見込みですが、将来推計の後年度には基準を下回ることが想定されます。
- ・しかし、全ての学年で学級30人以上の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいの確保、及びグループ学習や学校行事など一定規模の集団による教育活動を成立させるという観点では、一定規模の学級人数を維持できる見込みです。

【 隣接校を含めた生徒数・学級数の将来推計 】

- ・隣接校は、再編後の金成地区小中一貫教育校（金成中学校）と適正規模の基準を満たさない栗原西中学校となります。
- ・学校規模として一定規模を確保することが見込まれることから、現在の学校のまま維持していくこととします。
- ・宮城県教育委員会の「今後の中高一貫教育校の検討の基本姿勢」を踏まえ、隣接する宮城県岩ヶ崎高等学校との有機的な連携が可能となるように、中高一貫教育校の実現可能性について、宮城県教育委員会との協議を進めたいと考えています。

<再編後の栗駒中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	121	130	141	392	5	397	4	4	5	13	2	15
平成25年度	102	121	130	353	3	356	3	4	4	11	2	13
平成26年度	106	102	121	329	5	334	4	3	4	11	3	14
平成27年度	95	106	102	303	6	309	3	3	3	9	3	12
平成28年度	87	95	106	288	12	300	3	3	3	9	4	13
平成29年度	98	87	95	280	12	292	3	3	3	9	3	12
平成30年度	81	98	87	266	12	278	3	3	3	9	5	14
平成31年度	92	81	98	271	5	276	3	3	3	9	3	12

高 清 水 中 (生徒数 97人, 通常の学級数 3学級)  
 瀬 峰 中 (生徒数 126人, 通常の学級数 5学級)

【 現在の学校のままでの生徒数・学級数の将来推計 】

- ・高清水中学校の将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数(全体で9学級以上)の確保は難しい状況であり、各学年で1学級編制となる見込みです。
- ・瀬峰中学校の将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数(全体で9学級以上)の確保は難しい状況で、将来推計の後年度では各学年で1学級編制となる見込みです。

【 隣接校を含めた生徒数・学級数の将来推計 】

- ・両校の隣接校は、適正規模の基準を満たす築館中学校と適正規模の基準を満たさない両中学校が隣接となります。
- ・築館中学校と高清水中学校、瀬峰中学校の3校を1校とする再編の場合は、学級数が全体で15学級以上となり、適正規模の基準で示す上限の目安を超える規模となり、施設的にも教室が不足することから難しいものと考えます。
- ・高清水中学校と瀬峰中学校を1校とする学校再編の場合でも、適正規模の基準を満たす学級数の確保は難しい状況ですが、全体的に各学年2学級を編制することができ、30人以上の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいの確保、及びグループ学習や学校行事など一定規模の集団による教育活動を成立させるという観点では、一定規模の学級人数を維持できる見込みです。
- ・こうしたことから、施設規模等の状況を踏まえて現在の瀬峰中学校施設を活用して、隣接する高清水中学校と瀬峰中学校を1校とする学校再編を推進し、保護者並びに地域での意見交換を進めていくことが妥当であると考えられます。

【 隣接校を含めた地理的状況・通学上の課題・市総合計画等 】

- ・高清水中学校区は、栗原市の南部に位置し、中央部を東西に小山田川が流れ、南北に国道4号が走っています。
- ・瀬峰中学校区は、栗原市の南東部に位置し、一部丘陵はあるが、全般に平坦な地形となります。
- ・生徒の居住は、高清水・瀬峰地区ともに、地区内に点在しており、通学距離や地形を考慮した通学支援が必要であると考えます。

<高清水中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支援学級	合計	単式学級				特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	30	27	37	94	3	97	1	1	1	3	2	5
平成25年度	31	30	27	88	3	91	1	1	1	3	2	5
平成26年度	38	31	30	99	6	105	2	1	1	4	2	6
平成27年度	28	38	31	97	6	103	1	1	1	3	2	5
平成28年度	36	28	38	102	7	109	2	1	1	4	2	6
平成29年度	27	36	28	91	6	97	1	1	1	3	3	6
平成30年度	33	27	36	96	3	99	1	1	1	3	2	5
平成31年度	35	33	27	95	2	97	1	1	1	3	2	5

<瀬峰中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	43	36	41	120	6	126	2	1	2	5	1	6
平成25年度	47	43	36	126	7	133	2	2	1	5	1	6
平成26年度	44	47	43	134	6	140	2	2	2	6	1	7
平成27年度	43	44	47	134	2	136	2	2	2	6	1	7
平成28年度	48	43	44	135	2	137	2	2	2	6	1	7
平成29年度	49	48	43	140	3	143	2	2	2	6	2	8
平成30年度	24	49	48	121	1	122	1	2	2	5	1	6
平成31年度	43	24	49	116		116	2	1	2	5		5

<高清水中学校と瀬峰中学校を1校に再編した場合の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	73	63	78	214	9	223	3	2	2	7	2	9
平成25年度	78	73	63	214	10	224	3	2	2	7	2	9
平成26年度	82	78	73	233	12	245	3	2	2	7	2	9
平成27年度	71	82	78	231	8	239	3	3	2	8	2	10
平成28年度	84	71	82	237	9	246	3	2	3	8	2	10
平成29年度	76	84	71	231	9	240	3	3	2	8	3	11
平成30年度	57	76	84	217	4	221	2	2	3	7	2	9
平成31年度	78	57	76	211	2	213	3	2	2	7	2	9

栗原西中 (生徒数 203人, 通常の学級数 6学級)

【現在の学校のままでの生徒数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、一迫中学校及び花山中学校の2校を1校に再編し、平成24年度から開校しており、再編後の生徒数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・将来推計からは、適正規模の基準を満たす学級数(全体で9学級)の確保は難しい状況です。
- ・しかし、全体的に各学年で30人以上の学級規模となる見込みで、学級内での学びあいを確保するという点では一定規模の学級人数を維持できる見込みです。
- ・将来推計の後年度には、30人未満の少人数学級が増加する見込みで、学級内での学びあいを確保するという点でも難しい状況です。

【隣接校を含めた生徒数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす築館中学校と再編後の栗駒中学校となります。
- ・栗原西中学校は前期計画において、主に再編前の中学校における小規模校の解消を目指した緊急的な取り組みとして再編が実現して、開校1年目となっています。
- ・前期計画で提案をしていたとおり再編を進めることができ、栗原西中学校の開校までに至ったことから、新たな再編は慎重に判断していく必要があると考えます。
- ・こうしたことから、学級数において適正規模を確保するには至りませんが、各学年とも一定の学級規模を確保できる見込みであることから、当面は現在の学校を維持しながら、在籍生徒数の動向を見守っていくこととします。
- ・ただし、小規模校化が進行していく状況が続くような場合は、隣接校との新たな学校再編や通学区の組換えによる再々編も視野に入れながら継続的に検討することが必要と考えます。

<栗原西中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支援学級	合計	単式学級				特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	70	62	64	196	7	203	2	2	2	6	2	8
平成25年度	79	70	62	211	10	221	3	2	2	7	2	9
平成26年度	59	79	70	208	11	219	2	3	2	7	2	9
平成27年度	65	59	79	203	7	210	2	2	3	7	2	9
平成28年度	54	65	59	178	5	183	2	2	2	6	2	8
平成29年度	57	54	65	176	2	178	2	2	2	6	1	7
平成30年度	63	57	54	174	2	176	2	2	2	6	1	7
平成31年度	59	63	57	179		179	2	2	2	6		6

金 成 中 (生徒数 173人, 通常の学級数 6学級)

【現在の学校のままでの生徒数・学級数の将来推計】

- ・前期計画において、金成地区5小学校を1校とする再編後の小学校と併せて、小中一貫教育校の創設による再編として、平成26年度からの開校することで準備を進めており、再編後の生徒数、学級数は次表のとおり推計が見込まれます。
- ・栗原市立学校再編計画/学校再編構想で「栗原市では、中学校の教科担任を確保する観点から、小中学校の各学年で2学級程度が一定期間確保できる場合などに、特色ある学校づくりの一つとして小中一貫校の創設を検討していく」こととしており、将来推計からは、全体的に再編後の小学校とともに、各学年2学級程度を維持できる見込みとなっています。

【隣接校を含めた生徒数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす若柳中学校と再編後の栗駒中学校となります。
- ・金成中学校は、栗原市で初めての取り組みとなる小中一貫教育校として、平成26年度からの開校を予定していることから、再編後の小学校在籍児童数と中学校在籍生徒数の動向を見守りながら存続していくこととします。

<金成中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支援学級	合計	単式学級				特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成24年度	54	48	67	169	4	173	2	2	2	6	2	8
平成25年度	59	54	48	161	2	163	2	2	2	6	2	8
平成26年度	52	59	54	165	2	167	2	2	2	6	2	8
平成27年度	55	52	59	166	2	168	2	2	2	6	2	8
平成28年度	56	55	52	163	3	166	2	2	2	6	3	9
平成29年度	48	56	55	159	2	161	2	2	2	6	2	8
平成30年度	49	48	56	153	3	156	2	2	2	6	2	8
平成31年度	40	49	48	137	2	139	2	2	2	6	2	8

志 波 姫 中 (生徒数 185人, 通常の学級数 6学級)

【現在の学校のままでの生徒数・学級数の将来推計】

- ・将来推計からは、適正規模の基準（全体で9学級）を満たす学級数の確保は難しい状況です。

【隣接校を含めた生徒数・学級数の将来推計】

- ・隣接校は、適正規模の基準を満たす築館中学校と若柳中学校となり、両校のいずれかとの学校再編または、学区の組換えによる再編によって適正規模を確保することが可能となります。
- ・栗原市立学校再編計画／学校再編構想で「栗原市では、中学校の教科担任を確保する観点から、小中学校の各学年で2学級程度が一定期間確保できる場合などに、特色ある学校づくりの一つとして小中一貫教育校の創設を検討していく」こととしており、将来推計からは、通学区域を同じくする志波姫小学校とともに、各学年2学級程度を維持できる見込みとなっています。

【隣接校を含めた地理的状況・通学上の課題・市総合計画等】

- ・志波姫中学校区は、栗原市のやや東部に位置し、国道398号が東西に走り、主に国道沿線の東西に居住地も形成されています。
- ・こうしたことから、生徒の在籍数の動向を見守りながら、隣接する築館・若柳の両中学校との学区の組換えによる再編、または金成地区における小中一貫教育本来の趣旨に則った様々な取り組みの成果を検証しながら、志波姫小学校と併せた「施設分離型小中一貫教育校」として創設の両面から検討を重ね、改めて提案していくこととします。

<志波姫中学校の生徒数・学級数の将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数							学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計	
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計			
平成24年度	63	67	51	181	4	185	2	2	2	6	3	9	
平成25年度	62	63	67	192	5	197	2	2	2	6	2	8	
平成26年度	64	62	63	189	5	194	2	2	2	6	2	8	
平成27年度	61	64	62	187	1	188	2	2	2	6	1	7	
平成28年度	57	61	64	182	1	183	2	2	2	6	1	7	
平成29年度	54	57	61	172	1	173	2	2	2	6	1	7	
平成30年度	49	54	57	160	1	161	2	2	2	6	1	7	
平成31年度	41	49	54	144		144	2	2	2	6		6	

### (3) 幼 稚 園

#### 【栗原市立幼稚園における3年保育の早期実現に向けた幼稚園再編の基本的な考え方】

幼稚園の再編は、幼児教育では、「一定の集団を形成して群れて遊ぶ」ことの要素が重要であることから、年齢児ごとに20～30人程度で学級編制が可能となる再編を考慮し、施設整備と再編の両面から検討していきます。

市内全ての栗原市立幼稚園での3年保育を実現していくためには、前期計画において、多くの地区で施設整備が必要となることから、早期に施設整備計画を立て、できるだけ早い時期に3年保育を実現していくこととしていました。

幼稚園と保育所の制度の違いはあるものの、平成19年度以降の3～5歳児の就園・入所の割合が、0～2歳児では40%台で推移していますが、3・4歳児になると80%を超え、5歳児ではほぼ100%という状況となっています。

前期計画の推進段階における未就学児の保護者の皆さんを対象とした意見交換では、「できるだけ早く幼稚園の3年保育を実現すること」「市立幼稚園の保育年数を統一して公平な幼稚園とすること」などの意見が寄せられており、3年保育のニーズは、これまで以上に高まっているといえます。

3年保育の早期実現と幼稚園の再編及び施設整備の両面から検討を重ねてきた結果として、次頁の総括表のとおり今後推進していくこととします。

なお、施設整備については、基本的に「幼稚園保育所一体型の施設整備」として進めていきます。

保育形態については、前期計画において、幼児教育・保育一元型を積極的に推進していくことにしていましたが、現在栗原市では、3～5歳児を対象とする幼児教育・保育は、幼稚園・幼保一元施設・保育所の3形態となっています。

特に、幼稚園保育所一体施設において取り組んでいる幼保一元型の保育形態の場合は、同じクラスに幼稚園児、保育所児を分け隔てなく混合のクラス編制を行い、幼児教育と保育をおこなっていますが、幼稚園と保育所の2制度の中で、健診では、幼稚園児は学校保健法により、内科・歯科・眼科と耳鼻科の健康診断を受けることが義務付けられているが、保育所は、内科と歯科の嘱託医のみ設置が義務付けられているため、眼科等の健康診断を受けていません。また、修了証は、保育所は市長名、幼稚園は園長名であるなど、同じ施設内で一体感が削がれる場面があります。

同じ施設で幼児教育と保育を行うからには、できる限り同じ環境・体制づくりが必要であり、児童や保護者に対する違和感をなくすことが重要と考えます。

このようなことから、3～5歳児の保護者により分かりやすい幼児教育と保育の環境を提供するために、3～5歳児の希望する全ての幼児を幼稚園児、0～2歳児の受け入れを保育所児とすることを旨とした、栗原市独自の幼児教育・保育環境の具体化を検討していきます。

【 後期計画 総括表：幼稚園 】

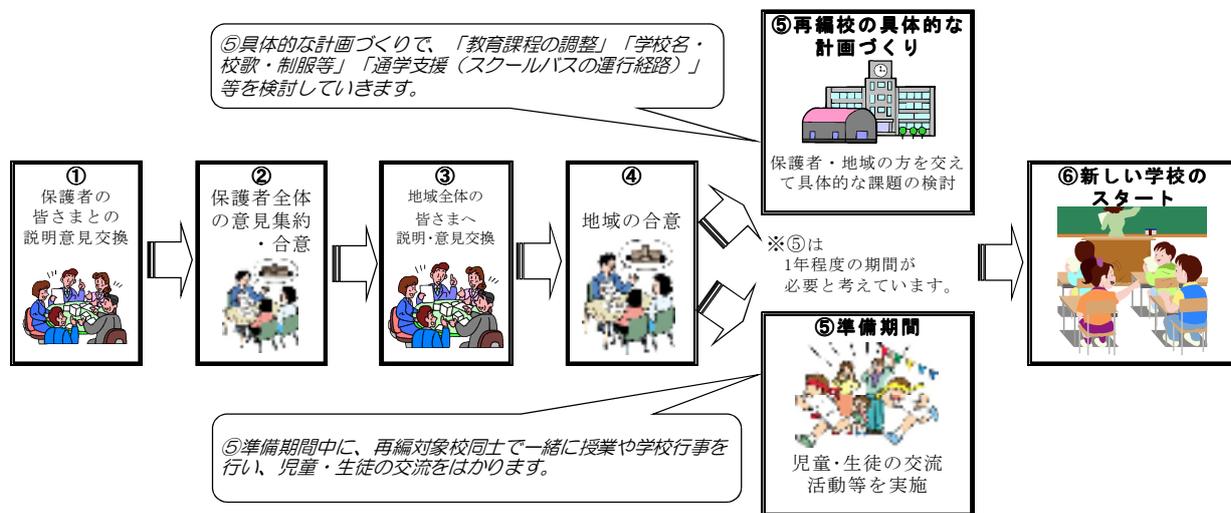
- ・幼稚園では、年齢児ごとに学級を編制することとされていることから、年齢児ごとに20～30人程度で学級編制が可能になる規模を目指して、再編を考えてきました。
- ・幼稚園3年保育の実現を目指して進める、施設整備は、基本的に「幼稚園保育所一体型の施設整備」として進めていきます

方 部	計画策定時期	前期計画での再編状況					後期計画		備 考
	平成19年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成31年度まで		
南 部	築館幼稚園 ①						→ (仮)築館幼稚園 ③	築館地区で1園に再編施設整備して3年保育の実現	
	玉沢幼稚園 ①								
	宮野幼稚園 ①								
	富野幼稚園 ①								
	[私立] 築館聖マリア幼稚園 ③								
	高清水幼稚園 ②	→ 高清水幼稚園 ③							幼保一体施設
	瀬峰幼稚園 ②						→ 瀬峰幼稚園 ③		幼保一体施設整備
	ふたば幼稚園 ③						→ ふたば幼稚園 ③		幼保一体施設整備
東 部	若柳幼稚園 ①					→ [私立] 若柳よしの幼稚園 ③	若柳幼稚園舎に増築整備して活用再編後の幼稚園運営を学校法人吉野学園が担う		
	有賀幼稚園 ①								
	大岡幼稚園 ①								
	畑岡幼稚園 ①								
	[私立] よしの幼稚 ③								
	金成幼稚園 ③							幼保一体施設	
北 部	岩ヶ崎幼稚園 ②					→ (仮)栗駒幼稚園 ③	栗駒地区で1園に再編、幼保一体施設整備し3年保育の実現		
	栗駒幼稚園 ②								
	鳥矢崎幼稚園 ②								
	尾松幼稚園 ②				→ 尾松幼稚園 ②				
	宝来幼稚園 ②				尾松幼稚園舎を活用				
	鶯沢幼稚園 ②			→ 鶯沢幼稚園 ③	鶯沢幼稚園舎を活用	→ [新]鶯沢幼稚園 ③		幼保一体施設	
	文字幼稚園 ②			鶯沢幼稚園舎を活用					
西 部	一迫幼稚園 ②					→ [新]一迫幼稚園 ②	→ 一迫幼稚園 ③	幼保一体施設整備	
	金田幼稚園 ②					一迫幼稚園舎を活用			
	花山幼稚園 ③								
市立22園/私立2園					→ 市立20園/私立2園	市立15園/私立2園		市立9園/私立2園	

※ 幼稚園名の次に表示する○数字は、保育年数を表しています。

### 3 推進スケジュール

#### ■ 保護者並びに地域の皆さまとの説明・意見交換会の進め方



①～② 保護者の皆さんとの意見交換 → 一定の方向性を取りまとめ合意

③～④ 保護者の意向を踏まえ地域説明・意見交換 → 地域合意  
（上記の①～④について、遅くとも平成29年までの間に合意を目指します）

- ⑤ 学校再編に向けた準備期間（地域合意をいただいた後の1～2年程度を確保）
- ・児童生徒の合同授業・交流活動などの実施
  - ・再編後の「学校名」「校歌」などの制定
  - ・通学支援の検討 など

⑥ 学校再編後の学校教育活動の開始（平成27～31年度の開始を目指します）

#### ■ 後期計画の推進日程（保護者並びに地域の合意によって開校時期が決まっていきます）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①計画説明	→						
②意見交換	→						
③地域説明	→						
④意見交換	→						
⑤再編準備		→					
⑥再編校開校			→				

## 参 考 資 料

■栗原市立幼稚園のこれまでの園児数の推移と将来推計	…	40
■再編小学校を除く小学校の児童数と学級数のこれまでの推移と将来推計	…	42
■再編中学校を除く中学校の生徒数と学級数のこれまでの推移と将来推計	…	45
■栗原市立幼稚園施設の状況	…	48
■栗原市立小・中学校施設の状況	…	49

■ 栗原市立幼稚園のこれまでの園児数の推移と将来推計

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度 (計画)		平成26年度 (推計)		平成27年度 (推計)				
	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数			
築館幼稚園	79	49	70	55	72	50	75	57	61	47	69	64	94	79	53	40	67	51			
5歳	79	49	70	55	72	50	75	57	61	47	69	64	94	79	53	40	67	51			
玉沢幼稚園	15	12	21	14	12	6	8	5	17	10	17	7	14	6	15	9	8	5			
5歳	15	12	21	14	12	6	8	5	17	10	17	7	14	6	15	9	8	5			
宮野幼稚園	30	20	28	16	25	13	21	16	26	16	35	14	27	0	34	20	26	15			
5歳	30	20	28	16	25	13	21	16	26	16	35	14	27	0	34	20	26	15			
富野幼稚園	11	8	11	6	5	2	5	0	12	0	6	0	2	0	9	3	6	2			
5歳	11	8	11	6	5	2	5	0	12	0	6	0	2	0	9	3	6	2			
高清水幼稚園	74	44	70	33	71	28	99	44	98	48	97	50	79	46	75	37	63	30			
3歳	再編 (平成22年度から幼稚園3年保育を実施)						37	18	28	11	32	17	17	10	26	12	20	9			
4歳	31	16	39	18	32	11	33	17	36	20	30	12	32	19	17	8	26	12			
5歳	43	28	31	15	39	17	29	9	34	17	35	21	30	17	32	16	17	9			
瀬峰幼稚園	96	87	92	79	90	73	70	58	67	53	76	65	60	47	48	41	48	40			
4歳	46	39	48	38	43	33	25	19	42	34	33	26	27	18	21	17	27	22			
5歳	50	48	44	41	47	40	45	39	25	19	43	39	33	29	27	24	21	19			
ふたば幼稚園	174	180	168	173	174	171	150	168	143	162	152	163	153	165	157	165	141	150			
3歳	56	54	52	50	57	57	39	51	51	57	59	53	42	39	56	57	43	44			
4歳	57	62	58	60	57	52	55	64	39	51	52	67	59	58	42	47	56	63			
5歳	61	64	58	63	60	62	56	53	53	54	41	43	52	68	59	61	42	43			
若柳幼稚園	79	78	72	72	64	71	59	64	53	58	45	58	再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】				
5歳	79	78	72	72	64	71	59	64	53	58	45	58	再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】				
有賀幼稚園	9	8	8	7	14	11	5	6	13	5	7	0	再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】				
5歳	9	8	8	7	14	11	5	6	13	5	7	0	再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】		再編 【若柳よしの幼稚園】				
大岡幼稚園	7	4	12	10	12	0	12	4	10	7	9	0	計	247	176	計	244	174	計	266	187
5歳	7	4	12	10	12	0	12	4	10	7	9	0	3歳	80	49	3歳	81	50	3歳	105	64
畑岡幼稚園	16	16	18	16	18	18	13	10	13	10	13	10	4歳	83	55	4歳	80	53	4歳	81	54
5歳	16	16	18	16	18	18	13	10	13	10	13	10	5歳	84	72	5歳	83	71	5歳	80	69
金成幼稚園	162	81	151	83	148	91	135	90	135	79	128	68	128	66	129	74	130	75			
3歳	52	21	44	25	52	31	38	22	45	22	42	21	43	16	47	24	40	21			
4歳	55	34	51	29	44	32	50	39	39	25	46	22	39	26	43	27	47	30			
5歳	55	26	56	29	52	28	47	29	51	32	40	25	46	24	39	22	43	24			

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度 (計画)		平成26年度 (推計)		平成27年度 (推計)	
	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数	対象 児数	就園 児数
岩ヶ崎幼稚園	62	57	56	49	57	55	52	51	50	51	60	66	61	71	61	60	49	48
4歳	29	25	28	24	31	31	21	19	29	30	30	35	31	35	30	29	19	19
5歳	33	32	28	25	26	24	31	32	21	21	30	31	30	36	31	30	30	29
栗駒幼稚園	14	15	18	16	22	16	14	9	7	7	17	13	17	8	9	7	9	8
4歳	7	7	11	9	11	6	3	3	4	4	13	9	4	2	5	4	4	3
5歳	7	8	7	7	11	10	11	6	3	3	4	4	13	6	4	4	5	4
烏矢崎幼稚園	16	15	15	13	21	18	25	20	19	15	17	13	22	11	19	16	16	13
4歳	6	5	9	7	13	11	13	10	6	5	12	9	10	2	9	7	7	6
5歳	10	10	6	6	8	7	12	10	13	10	5	4	12	9	10	9	9	8
尾松幼稚園	41	47	38	50	32	43	38	47	52	58	61	64	52	58	47	55	47	55
4歳	22	27	18	23	12	18	25	28	26	27	30	32	22	24	25	29	22	26
5歳	19	20	20	27	20	25	13	19	26	31	31	32	30	34	22	26	25	30
宝来幼稚園	11	10	14	13	14	13	11	6	13	9	統合 (尾松幼稚園に含む)							
4歳	4	3	10	10	4	3	7	3	6	6								
5歳	7	7	4	3	10	10	4	3	7	3								
文字幼稚園	11	8	15	11	12	9	10	5	9	2	再編 (鶯沢幼稚園に含む)							
4歳	6	4	9	7	4	3	5	2	4	0								
5歳	5	4	6	4	8	6	5	3	5	2								
鶯沢幼稚園	43	42	32	31	29	31	33	36	42	21	57	37	54	34	52	42	50	40
3歳	再編 (平成23年度から幼稚園3年保育と幼保一元化を実施)								12	6	21	16	17	8	14	9	19	13
4歳	21	21	9	8	18	22	14	14	16	7	16	11	21	15	17	15	14	12
5歳	22	21	23	23	11	9	19	22	14	8	20	10	16	11	21	18	17	15
一迫幼稚園	101	103	89	93	83	90	84	87	95	100	81	87	81	95	78	82	67	70
4歳	51	53	39	40	41	44	46	47	47	48	34	40	41	48	37	39	30	32
5歳	50	50	50	53	42	46	38	40	48	52	47	47	40	47	41	43	37	39
金田幼稚園	16	15	14	13	23	21	20	20	15	14	16	13	再編 (一迫幼稚園に含む)					
4歳	7	6	7	7	15	14	7	7	8	7	8	6						
5歳	9	9	7	6	8	7	13	13	7	7	8	7						
花山幼稚園	16	15	19	16	16	13	15	11	16	13	21	18	20	20	15	13	13	11
3歳	2	2	6	4	7	6	4	2	5	4	10	9	4	3	1	1	8	6
4歳	10	9	3	3	6	4	6	6	5	3	6	6	10	9	4	3	1	1
5歳	4	4	10	9	3	3	5	3	6	6	5	3	6	8	10	8	4	3
合計	1,083	914	1,031	869	1,014	843	954	814	966	785	931	777	1,111	882	1,045	837	1,006	799
3歳	110	77	102	79	116	94	118	93	141	100	111	83	203	125	225	154	235	158
4歳	352	311	339	283	331	284	310	278	307	267	310	275	379	311	330	279	334	278
5歳	621	526	590	507	567	465	526	443	518	418	510	419	529	446	490	404	437	364

\* 平成25年度(計画)は入園申込み者数で表し、平成26~27年度は、平成24根5月1日現在で通園区域に居住する乳幼児数に平均就園率(平成19~24年度)を掛けて算定している。

■ 再編小学校を除く小学校の児童数と学級数のこれまでの推移と将来推計

＜築館小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計＞ (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支援学級	合計	単式学級						複式学級	特別支援学級	合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年				小計
平成19年度	61	85	67	69	74	60	416	4	420	2	3	2	2	2	2	13		2	15
平成20年度	86	59	82	70	71	75	443	4	447	3	2	3	2	2	2	14		2	16
平成21年度	77	86	55	80	68	70	436	5	441	3	3	2	2	2	2	14		2	16
平成22年度	81	81	89	54	78	67	450	4	454	3	3	3	2	2	2	15		2	17
平成23年度	75	79	79	85	55	80	453	4	457	3	3	2	3	2	2	15		3	18
平成24年度	69	76	76	77	81	56	435	3	438	2	3	2	2	3	2	14		2	16
平成25年度	75	69	76	76	76	82	454	2	456	3	2	3	3	3	3	17		2	19
平成26年度	103	75	68	75	75	77	473	2	475	3	3	2	3	3	3	17		2	19
平成27年度	58	102	74	68	74	76	452	2	454	2	3	3	2	3	3	16		2	18
平成28年度	73	58	101	74	67	75	448	1	449	3	2	3	3	2	3	16		1	17
平成29年度	72	73	57	101	73	68	444	1	445	3	3	2	3	3	2	16		1	17
平成30年度	67	72	72	57	100	74	442		442	2	3	3	2	3	3	16			16
平成31年度	78	66	71	72	56	101	444		444	2	2	3	3	2	3	15			15

※ 表中の「児童数、学級数」は、平成19～24年度は、毎年5月1日現在の実数です。平成25～30年度は、平成24年4月1日までに生まれて市内に居住している乳幼児数を基礎に、指定校変更(平成19～24年度の平均)を考慮してから推計しています。以降の各表においても同様です。

＜玉沢小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計＞ (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支援学級	合計	単式学級						複式学級	特別支援学級	合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年				小計
平成19年度	22	7	17	17	21	5	89	3	92	1	1	1	1	1	1	6		2	8
平成20年度	13	21	5	17	16	20	92	2	94	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成21年度	17	12	22	5	18	16	90	1	91	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成22年度	9	17	12	22	7	19	86		86	1	1	1	1	1	1	6			6
平成23年度	5	9	17	12	22	8	73		73	1	1	1	1	1	1	6			6
平成24年度	12	5	9	17	12	20	75	1	76	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成25年度	14	12	5	9	17	12	69	1	70	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成26年度	11	13	12	5	8	17	66	1	67	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成27年度	12	11	13	11	5	9	61	1	62	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成28年度	7	12	11	13	11	5	59	1	60	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成29年度	11	6	12	11	13	11	64		64	1	1	1	1	1	1	6			6
平成30年度	10	11	6	11	10	13	61		61	1	1	1	1	1	1	6			6
平成31年度	10	9	11	6	11	11	58		58	1	1	1	1	1	1	6			6

＜宮野小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計＞ (H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支援学級	合計	単式学級						複式学級	特別支援学級	合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年				小計
平成19年度	24	18	20	22	15	17	116		116	1	1	1	1	1	1	6			6
平成20年度	24	23	18	21	22	16	124	1	125	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成21年度	19	23	24	18	22	21	127	1	128	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成22年度	19	19	24	26	18	22	128	1	129	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成23年度	20	21	18	24	26	17	126	1	127	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成24年度	26	23	19	19	23	24	134	2	136	1	1	1	1	1	1	6		2	8
平成25年度	27	25	22	18	18	22	132	2	134	1	1	1	1	1	1	6		2	8
平成26年度	20	26	23	21	17	17	124	1	125	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成27年度	26	19	24	22	20	16	127	1	128	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成28年度	20	25	18	23	21	19	126	1	127	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成29年度	28	19	24	17	22	20	130	1	131	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成30年度	19	26	18	22	17	21	123		123	1	1	1	1	1	1	6			6
平成31年度	21	18	25	17	22	16	119		119	1	1	1	1	1	1	6			6

<富野小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成19年度	6	9	3	12	3	8	41		41	1	1	1	1	1	4	2		4		
平成20年度	8	6	8	2	11	3	38		38	1	1	1	1	1	5	1		5		
平成21年度	10	8	5	8	3	11	45		45	1	1	1	1	1	5	1		5		
平成22年度	2	10	8	6	7	4	37		37	1	1	1	1	1	5	1		5		
平成23年度	1	2	11	9	7	8	38		38	1	1	1	1	1	5	1		5		
平成24年度	4	4	2	10	9	6	31		31	1	1	1	1	1	4	1		4		
平成25年度	4	4		2	11	9	30		30	1	1		1	1	4	1		4		
平成26年度	1	4	4		2	11	22		22	1	1			1	3	2		3		
平成27年度	6	1	4	4		2	17		17	1	1		1		3	2		3		
平成28年度	4	6	1	4	4		19		19	1	1		1		3	2		3		
平成29年度	4	4	6	1	4	4	23		23	1	1	1		1	4	2		4		
平成30年度	5	4	4	6	1	4	24		24	1	1	1	1		4	2		4		
平成31年度	3	5	4	4	6	1	23		23	1	1	1		1	4	2		4		

※ 表中の「複数学年で1学級」となっているのは、複式学級編制を表示しています。平成19～24年度は実際の編制、平成25年度からは、編制の想定です。以降の各表においても同様です。

<高清水小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成19年度	35	34	35	39	37	38	218	2	220	1	1	1	1	1	6			2	8	
平成20年度	37	34	35	37	40	38	221	5	226	2	1	1	1	1	7			2	9	
平成21年度	32	38	34	35	37	39	215	6	221	1	2	1	1	1	7			2	9	
平成22年度	37	30	39	33	35	38	212	6	218	2	1	1	1	1	7			2	9	
平成23年度	26	37	30	39	31	35	198	8	206	1	2	1	1	1	7			3	10	
平成24年度	33	27	36	28	38	31	193	9	202	1	1	1	1	1	6			3	9	
平成25年度	35	33	27	36	28	38	197	3	200	1	1	1	2	1	8			2	10	
平成26年度	30	35	33	27	36	28	189	3	192	1	1	1	1	2	7			2	9	
平成27年度	32	30	35	33	27	36	193	1	194	1	1	1	1	2	7			1	8	
平成28年度	17	32	30	35	33	27	174		174	1	1	1	1	1	6				6	
平成29年度	26	17	32	30	35	33	173		173	1	1	1	1	1	6				6	
平成30年度	20	26	17	32	30	35	160		160	1	1	1	1	1	6				6	
平成31年度	29	20	26	17	32	30	154		154	1	1	1	1	1	6				6	

※ 表中の「児童数、学級数」は、平成24年度は、5月1日現在の実数です。平成25～30年度は、平成24年4月1日までに生まれて市内に居住している乳幼児数から推計しています。

<瀬峰小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数										
	通常の学級								特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年			2年	3年	4年	5年	6年	小計				
平成19年度	49	49	37	48	41	48	272	5	277	2	2	1	2	2	2	11			3	14
平成20年度	54	49	49	36	49	41	278	4	282	2	2	2	1	2	2	11			2	13
平成21年度	44	51	49	47	35	48	274	6	280	2	2	2	2	1	2	11			2	13
平成22年度	48	43	51	47	45	35	269	7	276	2	2	2	2	2	1	11			2	13
平成23年度	49	48	44	51	48	45	285	7	292	2	2	2	2	2	2	12			2	14
平成24年度	24	49	47	45	51	48	264	5	269	1	2	2	2	2	2	11			2	13
平成25年度	43	24	49	47	45	51	259	3	262	2	1	2	2	2	2	11			2	13
平成26年度	33	43	24	49	47	45	241	3	244	1	2	1	2	2	2	10			2	12
平成27年度	27	33	43	24	49	47	223	1	224	1	1	2	1	2	2	9			1	10
平成28年度	21	27	33	43	24	49	197		197	1	1	1	2	1	2	8				8
平成29年度	25	21	27	33	43	24	173		173	1	1	1	1	2	1	7				7
平成30年度	25	25	21	27	33	43	174		174	1	1	1	1	1	2	7				7
平成31年度	34	25	25	21	27	33	165		165	1	1	1	1	1	1	6				6

<志波姫小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			
平成19年度	64	64	68	50	59	56	361	7	368	2	2	2	2	2	2	12		4	16
平成20年度	64	64	64	66	49	58	365	8	373	2	2	2	2	2	2	12		4	16
平成21年度	63	63	62	65	66	50	369	6	375	2	2	2	2	2	2	12		3	15
平成22年度	57	62	63	62	66	66	376	6	382	2	2	2	2	2	2	12		2	14
平成23年度	58	57	64	64	62	67	372	4	376	2	2	2	2	2	2	12		2	14
平成24年度	49	54	57	61	64	62	347	2	349	2	2	2	2	2	2	12		1	13
平成25年度	41	49	54	57	61	64	326	3	329	2	2	2	2	2	2	12		2	14
平成26年度	52	41	49	54	57	61	314	3	317	2	2	2	2	2	2	12		2	14
平成27年度	59	52	41	49	54	57	312	1	313	2	2	2	2	2	2	12		1	13
平成28年度	42	59	52	41	49	54	297		297	2	2	2	2	2	2	12			12
平成29年度	56	42	59	52	41	49	299		299	2	2	2	2	2	2	12			12
平成30年度	43	56	42	59	52	41	293		293	2	2	2	2	2	2	12			12
平成31年度	52	43	56	42	59	52	304		304	2	2	2	2	2	2	12			12

<花山小学校の児童数・学級数のこれまでの推移と将来推計>

(H24.05.01現在)

項目 年度	児童数									学級数									
	通常の学級							特別支援学級	合計	単式学級							複式学級	特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			
平成19年度	7	12	11	13	7	8	58	2	60	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成20年度	4	9	12	11	12	7	55	2	57	1	1	1	1	1	1	6		1	7
平成21年度	9	4	7	11	10	12	53	3	56	1	1		1	1	1	5	1	1	6
平成22年度	3	8	3	6	11	10	41	2	43	1	1	1		1	1	5	1	1	6
平成23年度	3	3	8	3	7	11	35	2	37	1		1		1	1	4	2	1	5
平成24年度	5	3	3	8	3	7	29	1	30	1		1		1		3	3	1	4
平成25年度	5	5	3	3	8	3	27		27	1	1		1		1	4	2		4
平成26年度	6	5	5	3	3	8	30		30	1	1	1		1		4	2		4
平成27年度	10	6	5	5	3	3	32		32	1	1	1	1		1	5	1		5
平成28年度	4	10	6	5	5	3	33		33	1	1	1	1	1		5	1		5
平成29年度	1	4	10	6	5	5	31		31	1		1	1	1		4	2		4
平成30年度	8	1	4	10	6	5	34		34	1	1		1	1		4	2		4
平成31年度	5	8	1	4	10	6	34		34	1	1	1		1	1	5	1		5

※ 表中の「複数学年で1学級」の表示は、複式学級編制を表しています。平成24年度は実際の編制、平成25年度からは、編制の想定です。

■ 再編中学校を除く中学校の生徒数と学級数のこれまでの推移と将来推計

<築館中学校の生徒数・学級数のこれまでの推移と将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成19年度	125	99	132	356	4	360	4	3	4	11	3	14
平成20年度	90	122	101	313	7	320	3	4	3	10	3	13
平成21年度	108	88	122	318	8	326	4	3	4	11	3	14
平成22年度	115	107	88	310	3	313	4	3	3	10	2	12
平成23年度	107	117	106	330	3	333	4	3	3	10	2	12
平成24年度	109	107	116	332	3	335	4	3	3	10	2	12
平成25年度	110	109	107	326	3	329	4	3	3	10	2	12
平成26年度	130	110	109	349	3	352	4	3	3	10	2	12
平成27年度	125	130	110	365	3	368	4	4	3	11	3	14
平成28年度	111	125	130	366	3	369	4	4	4	12	3	15
平成29年度	101	111	125	337	2	339	3	3	4	10	2	12
平成30年度	111	101	111	323	1	324	4	3	3	10	1	11
平成31年度	127	111	101	339		339	4	3	3	10		10
平成32年度	136	127	111	374		374	4	4	3	11		11
平成33年度	111	136	127	374		374	4	4	4	12		12
平成34年度	107	111	136	354		354	4	3	4	11		11
平成35年度	122	107	111	340		340	4	3	3	10		10
平成36年度	105	122	107	334		334	3	4	3	10		10

※ 表中の「生徒数、学級数」は、平成19～24年度は、毎年5月1日現在の実数です。平成25～30年度は、通学区域内の小学校の在籍児童数及び平成24年4月1日までに生まれて市内に居住している乳幼児数から推計しています。以降の各表においても同様です。

<若柳中学校の生徒数・学級数のこれまでの推移と将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成19年度	110	112	124	346	7	353	4	3	4	11	2	13
平成20年度	87	108	111	306	6	312	3	3	3	9	3	12
平成21年度	129	87	109	325	3	328	4	3	3	10	2	12
平成22年度	119	126	87	332	6	338	4	4	3	11	2	13
平成23年度	110	119	122	351	10	361	4	3	4	11	2	13
平成24年度	108	111	118	337	8	345	4	3	3	10	2	12
平成25年度	97	108	111	316	5	321	3	3	3	9	2	11
平成26年度	111	97	108	316	6	322	4	3	3	10	1	11
平成27年度	109	111	97	317	8	325	4	3	3	10	2	12
平成28年度	108	109	111	328	7	335	4	3	3	10	2	12
平成29年度	92	108	109	309	5	314	3	3	3	9	1	10
平成30年度	85	92	108	285	2	287	3	3	3	9	1	10
平成31年度	75	85	92	252	2	254	3	3	3	9	1	10
平成32年度	84	75	85	244		244	3	2	3	8		8
平成33年度	83	84	75	242		242	3	3	2	8		8
平成34年度	80	83	84	247		247	3	3	3	9		9
平成35年度	81	80	83	244		244	3	2	3	8		8
平成36年度	105	81	80	266		266	3	3	2	8		8

<高清水中学校の生徒数・学級数のこれまでの推移と将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成19年度	36	36	42	114	2	116	2	1	2	5	2	7
平成20年度	35	35	36	106	2	108	1	1	1	3	2	5
平成21年度	37	35	35	107		107	2	1	1	4		4
平成22年度	37	36	35	108		108	2	1	1	4		4
平成23年度	27	37	37	101	1	102	1	1	1	3	1	4
平成24年度	30	27	37	94	3	97	1	1	1	3	2	5
平成25年度	31	30	27	88	3	91	1	1	1	3	2	5
平成26年度	38	31	30	99	6	105	2	1	1	4	2	6
平成27年度	28	38	31	97	6	103	1	1	1	3	2	5
平成28年度	36	28	38	102	7	109	2	1	1	4	2	6
平成29年度	27	36	28	91	6	97	1	1	1	3	3	6
平成30年度	33	27	36	96	3	99	1	1	1	3	2	5
平成31年度	35	33	27	95	2	97	1	1	1	3	2	5
平成32年度	30	35	33	98		98	1	1	1	3		3
平成33年度	32	30	35	97		97	1	1	1	3		3
平成34年度	17	32	30	79		79	1	1	1	3		3
平成35年度	26	17	32	75		75	1	1	1	3		3
平成36年度	20	26	17	63		63	1	1	1	3		3

<瀬峰中学校の生徒数・学級数のこれまでの推移と将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成19年度	32	41	40	113		113	1	2	1	4		4
平成20年度	47	32	42	121	1	122	2	1	2	5	1	6
平成21年度	34	46	32	112	4	116	1	2	1	4	3	7
平成22年度	42	33	46	121	5	126	2	1	2	5	3	8
平成23年度	38	42	33	113	4	117	2	2	1	5	2	7
平成24年度	43	36	41	120	6	126	2	1	2	5	1	6
平成25年度	47	43	36	126	7	133	2	2	1	5	1	6
平成26年度	44	47	43	134	6	140	2	2	2	6	1	7
平成27年度	43	44	47	134	2	136	2	2	2	6	1	7
平成28年度	48	43	44	135	2	137	2	2	2	6	1	7
平成29年度	49	48	43	140	3	143	2	2	2	6	2	8
平成30年度	24	49	48	121	1	122	1	2	2	5	1	6
平成31年度	43	24	49	116		116	2	1	2	5		5
平成32年度	33	43	24	100		100	1	2	1	4		4
平成33年度	27	33	43	103		103	1	1	2	4		4
平成34年度	21	27	33	81		81	1	1	1	3		3
平成35年度	27	21	27	75		75	1	1	1	3		3
平成36年度	25	27	21	73		73	1	1	1	3		3

<金成中学校の生徒数・学級数のこれまでの推移と将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				81条	合計	単式学級				81条 学級	合計
	1年	2年	3年	小計	小計		1年	2年	3年	小計		
平成19年度	81	57	72	210	2	212	3	2	2	7	2	9
平成20年度	70	81	58	209	6	215	2	3	2	7	2	9
平成21年度	52	70	81	203	9	212	2	2	3	7	2	9
平成22年度	66	51	70	187	10	197	2	2	2	6	3	9
平成23年度	48	67	52	167	8	175	2	2	2	6	2	8
平成24年度	54	48	67	169	4	173	2	2	2	6	2	8
平成25年度	59	54	48	161	2	163	2	2	2	6	2	8
平成26年度	52	59	54	165	2	167	2	2	2	6	2	8
平成27年度	55	52	59	166	2	168	2	2	2	6	2	8
平成28年度	56	55	52	163	3	166	2	2	2	6	3	9
平成29年度	48	56	55	159	2	161	2	2	2	6	2	8
平成30年度	49	48	56	153	3	156	2	2	2	6	2	8
平成31年度	40	49	48	137	2	139	2	2	2	6	2	8
平成32年度	46	40	49	135	1	136	2	1	2	5	1	6
平成33年度	39	46	40	125		125	2	2	1	5		5
平成34年度	43	39	46	128		128	2	1	2	5		5
平成35年度	47	43	39	129		129	2	2	1	5		5
平成36年度	40	47	43	130		130	2	2	2	6		6

<志波姫中学校の生徒数・学級数のこれまでの推移と将来推計> (H24.05.01現在)

項目 年度	生徒数						学級数					
	通常の学級				特別支 援学級	合計	単式学級				特別支 援学級	合計
	1年	2年	3年	小計			1年	2年	3年	小計		
平成19年度	63	65	66	194	4	198	2	2	2	6	2	8
平成20年度	54	61	66	181	4	185	2	2	2	6	2	8
平成21年度	58	54	61	173	4	177	2	2	2	6	2	8
平成22年度	50	59	54	163	3	166	2	2	2	6	2	8
平成23年度	66	51	60	177	3	180	2	2	2	6	2	8
平成24年度	63	67	51	181	4	185	2	2	2	6	3	9
平成25年度	62	63	67	192	5	197	2	2	2	6	2	8
平成26年度	64	62	63	189	5	194	2	2	2	6	2	8
平成27年度	61	64	62	187	1	188	2	2	2	6	1	7
平成28年度	57	61	64	182	1	183	2	2	2	6	1	7
平成29年度	54	57	61	172	1	173	2	2	2	6	1	7
平成30年度	49	54	57	160	1	161	2	2	2	6	1	7
平成31年度	41	49	54	144		144	2	2	2	6		6
平成32年度	52	41	49	142		142	2	2	2	6		6
平成33年度	59	52	41	152		152	2	2	2	6		6
平成34年度	42	59	52	153		153	2	2	2	6		6
平成35年度	56	42	59	157		157	2	2	2	6		6
平成36年度	43	56	42	141		141	2	2	2	6		6

## 栗原市立幼稚園 施設 の 状 況

平成24年4月1日 現在

地区	幼稚園名	現在の 保育年数	建築年月 園 舎	大規模 改 造	耐震診 断年度	保有教室等		備 考
						保育室	遊戯室	
築館	築館幼稚園	1年	S63.02		—	3	1	
	玉沢幼稚園	1年	H4.03		—	1	1	
	宮野幼稚園	1年	S61.02		—	1	1	
	富野幼稚園	1年	H06.01		—	1	1	
若柳	若柳幼稚園	1年	H25.03		—	7	1	増築工事中 再編園舎
	有賀幼稚園	1年	S53.03	H08		1	1	H25 閉園
	大岡幼稚園	1年	H04.12		—	1	1	H25 閉園
	畑岡幼稚園	1年	S60.03		—	1	1	H25 閉園
栗駒	岩ヶ崎幼稚園	2年	H10.03		—	3	1	
	栗駒幼稚園	2年	H06.03		—	2	1	
	鳥矢崎幼稚園	2年	H02.11 H11.09		—	2	1	
	尾松幼稚園	2年	H01.03 H12.09		—	2	1	統合園舎
高清水	高清水幼稚園	3年	H12.07		—	3	1	幼保一体施設
一迫	一迫幼稚園	2年	H06.02 H11.11		—	4	1	再編園舎
	金田幼稚園	2年	H09.02		—	2	1	H25 閉園
瀬峰	瀬峰幼稚園	2年	S62.02 H11.02		—	4	1	
鶯沢	鶯沢幼稚園	3年	H23.03		—	3	1	幼保一体施設
金成	金成幼稚園	3年	H18.03		—	3	1	幼保一体施設
志波姫	ふたば幼稚園	3年	S58.03 H16.12		—	9	1	
花山	花山幼稚園	3年	H06.02		—	3	1	

栗原市立小・中学校 施設の状況

平成24年4月1日 現在

地区	学校名	建築年月(完成年月)				大規模 改造	耐震診 断年度	保有教室等		備考
		校舎	体育館	プール	柔剣道場			普通教室	特別教室等	
築館	築館小学校	S57.03	S61.02	H09.03	—	H18校	H10	23 (3)	8	
	玉沢小学校	S59.02	H06.02	H08.03	—		—	7 (3)	7	
	宮野小学校	S60.02	S60.02	S60.09	—		—	6 (1)	6	
	〃 栗原中央病院分校	H14.03	—	—	—		—	(1)		
	富野小学校	H05.03	H05.03	H06.12	—		—	6	5	
	築館中学校	H22.01	H24.03	H25.01	H24.03		—	12 (6)	8	プール 改築中
	〃 栗原中央病院分校	H14.03	—	—	—		—	(1)		
若柳	若柳小学校	S58.08	S59.01	S58.10	—	H24校 H24体	—	24 (3)	8	再編校舎
	大目小学校	H07.03	H08.02	H08.11	—		—	6	5	H25 閉校
	有賀小学校	S52.12 S62.12	S60.03	S53.07	—		H16校 — 体	6 (1)	8	H25 閉校
	大岡小学校	S61.03	S61.03	S61.09	—		—	6	6	H25 閉校
	畑岡小学校	S60.03	S61.01	S57.07	—		—	6	6	H25 閉校
	若柳中学校	H25.06	S47.08	S50.05	H11.09	— 校 H02体	— 校 H15体	12 (6)	8	
	岩ヶ崎小学校	H13.03	H11.03	H15.12	—	H24校増	—	12 (4)	6	再編校舎
栗駒	栗駒小学校	H06.03	H08.03	H06.07	—		—	6 (1)	7	H25 閉校
	鳥矢崎小学校	H02.03	H02.03	H02.07	—		—	6 (1)	5	H25 閉校
	栗駒南小学校	S60.06	S61.01	H11.03	—	H24校	—	6 (6)	7	再編校舎
	栗駒中学校	S47.03 S48.08	S49.09	S54.08	市民武道場	H22校 H19体	H17校 H17体	20 (2)	14	再編校舎
	高清水小学校	H02.08	H04.02	H02.08	—		—	10 (3)	7	
高清水	高清水中学校	S54.08	H11.02	H24.08改	—	H22校	H21校 — 体	4 (2)	7	
一迫	一迫小学校	H06.08	H08.03	H06.08	—		—	12 (3)	6	再編校舎
	姫松小学校	S53.12	S55.01	H17.03改	—	H09校	H18校 H15体	6 (1)	7	H25 閉校
	金田小学校	S52.02 H09.02	S55.01	S45.06	—	H08校 H23体	H18校 H15体	7 (2)	6	H25 閉校
	長崎小学校	S45.01 H10.12	S58.02	S46.06	—	H01校	H18校	6 (1)	5	H25 閉校
	栗原西中学校	S48.03 S49.03	S48.12	H21.06改	H18.04	H22校 H22体	H21校 H21体	12 (2)	10	再編校舎
瀬峰	瀬峰小学校	S58.02 H18.12	H20.12	S51.06	—		—	12 (2)	7	
	瀬峰中学校	S54.03 S61.02	H11.12	H22.03改	—		H16校 — 体	8	9	
鶯沢	鶯沢小学校	H17.07	S44.12	H23.03改	—	H24体	H16体	7	8	再編校舎
	鶯沢中学校	S48.03	S48.03	—	S53.02	H04校	H16校 H16体	6 (1)	9	H25 閉校
金成	沢辺小学校	S54.03	S54.03	S56.07	—	H13校 H13体	H12校 H12体	7 (1)	6	H26 閉校
	金成小学校	S55.03	S55.03	S55.08	—		H12校 H12体	7	6	H26 閉校
	萩野小学校	S59.02	S59.02	S59.07	—		—	7	6	H26 閉校
	萩野第二小学校	H07.03	H07.03	H07.08	—		—	6 (1)	5	H26 閉校
	津久毛小学校	S63.03	S63.03	S63.08	—		—	6	6	H26 閉校
	金成中学校	S45.03 S46.03	—	—	H02.03	H4.5校	H15校	12 (3)	11	小中施設 工事中
志波姫	志波姫小学校	S63.02 H25.10	H25.08	H17.03	—		—	12 (4)	6	校・体 改築中
	志波姫中学校	H08.12	H11.09	H21.03	S54.03	H23武	—	9 (1)	10	
花山	花山小学校	S57.01	H07.03	S33.07	—		H18校 —	7 (1)	5	



## 栗原市立学校再編計画

平成20年3月 策定

平成25年5月 <後期計画>

企画・編集 **栗原市教育委員会**

〒989-5171 栗原市金成沢辺町沖 200 番地

教育部 教育環境推進室

TEL (0228) 42-3513

FAX (0228) 42-3518

e-mail : kyokan@kuriharacity.jp